

社会学研究科  
博士（前期）課程

授業科目名	比較社会学特殊講義Ⅰ（大学院授業）			担当者	赤坂 真人		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜5限	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	<p>テーマ</p> <p>この講義は社会学のプラットフォーム（理論枠組み）について詳細な検討を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>私たち人間は社会集団の中で生活している。そのメンバーの価値観や生活様式はそれぞれ異なっているが、世界はなんとか社会秩序を維持している。この講義を受講すれば、私たちの社会がいかんして構成され、維持され、そして変化するかに関するメカニズムを理解できるようになる。</p>						
授業概要	講義の全体を一言でいえば社会の構造と機能を明らかにすることである。社会構造はミクロからマクロへと分節化できる。講義ではマクロからミクロへ、すなわち行為、自我、文化、社会的行為、社会的役割と地位、社会集団と組織、社会規範、社会階級と階層、社会体制（システム）の順番で講義する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内の小テスト（50％）と定期試験（50％）によって評価する。小テストは採点して返却するので復習すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義の単元が終了するごとに論述式の小テストを行う。学生は解答を教員のメールボックスに提出する。教員は採点し、それに400字程度のコメント書いて学生に返送する。コメントに納得がいかない場合、学生は教員のコメントに反論することができる。教員はそれに対してもコメントを返送する。						
履修条件・注意事項	毎週課された課題をすること。割り当てられた課題を必ず発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回、課題を出すので、必ずやってくる。毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。						
授業計画						担当者	
1.人間社会の構造と機能						赤坂	
2.行為の構造						赤坂	
3.文化と環境						赤坂	
4.動機、目標、規範、価値						赤坂	
5.社会的行為						赤坂	
6.自我論						赤坂	
7.社会的自己						赤坂	
8.社会的役割と地位						赤坂	
9.社会的役割を演じるということ						赤坂	
10.社会集団と組織						赤坂	
11.社会階級と階層						赤坂	
12.社会規範						赤坂	
13.社会的価値						赤坂	
14.社会体制						赤坂	
15.社会システム						赤坂	
16.定期試験						赤坂	
教科書							
教・書籍名1	社会学原理			教・出版社名1	岩波書店		
教・著者名1	富永健一			教・ISBN1	978-4000010379		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			
参考書							

参・書籍名1	社会学の理論	参・出版社名1	有斐閣ブックス
参・著者名1	橋本和幸編	参・ISBN1	978-4641086494
参・書籍名2	社会学	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	筒井淳也	参・ISBN2	978-4000269971

授業科目名	比較社会学特殊講義Ⅴ（大学院授業）			担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「韓国企業と韓国社会の理解」がテーマである。到達目標は、単に、教科書をマスターするのではなく、自分なりの問題意識を持つとともに韓国の社会の基本的な分析枠組みを理解することである。また、韓国の社会、経済の変遷を体系的に理解するとともに、読解力の養成、文章のまとめる能力、情報の収集力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。						
授業概要	<p>授業の概要は、分断体制資本主義の成立と財閥と資本、開発年代の到来と資本蓄積、重化学時代と資本蓄積、民主化の進展と財閥資本の新展開、グローバル化の進展と財閥資本などである。この授業は韓国財閥の発展の研究に基づいて、韓国社会と財閥の基本的なことを理解するとともに、韓国社会の背景の多様なアプローチやもの見方を学ぶことを目的とする。この科目は中学校社会と高校地理歴史の専修免許を修得するための科目である。</p> <p>また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。また、テキストは変更可能である。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
授業計画					担当者		
1.リエンション					姜		
2.分断体制資本主義の成立と財閥					姜		
3.財閥資本形成条件					姜		
4.開発年代の到来と財閥資本					姜		
5.196代における資本蓄積の基本					姜		
6.基礎形成期における財閥資本の特徴					姜		
7.重化学工業化時代と財閥資本					姜		
8.財閥資本の蓄積メカニズム					姜		
9.民主化の進展と財閥資本の新展開					姜		
10.1980年代における財閥資本の多角化戦略					姜		
11.1980年代における財閥蓄積の新展開					姜		
12.金泳三政権の財閥政策					姜		
13.完熟期における財閥資本の様態					姜		
14.ケースの研究					姜		
15.総合復習					姜		
16.単位認定試験					姜		
教科書							
教・書籍名1	韓国財閥史の研究			教・出版社名1	日本経済評論社		
教・著者名1	鄭章淵			教・ISBN1			

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	



15.現代思想のまとめ		赤坂	
16.定期試験		赤坂	
教科書			
教・書籍名1	ベンサム：功利主義入門	教・出版社名1	慶応義塾大学出版会
教・著者名1	フィリップ・スコフィールド	教・ISBN1	978-4876989812
教・書籍名2	正義の教室	教・出版社名2	ダイヤモンド社
教・著者名2	飲茶	教・ISBN2	978-4478102572
参考書			
参・書籍名1	社会的行為の構造	参・出版社名1	木鐸社
参・著者名1	タルコット・パーソンズ	参・ISBN1	絶版
参・書籍名2	功利と直観	参・出版社名2	木鐸社
参・著者名2	児玉 聡	参・ISBN2	978-4326154135

授業科目名	比較社会学特殊講義VII (大学院授業)			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
SDGs 関連項目	<p>7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>Theme of this course: Comparative perspectives to environmental studies. The course goal: This course serves as a broad overview at the MA level to academic discourses, debates, and research approaches related to social sciences-oriented environmental studies. The first gatherings will show how environmental topics have been treated in social sciences. Due to the interdisciplinary nature of environmental studies also the links with natural sciences and other relevant approaches are analysed.</p>						
授業概要	<p>Course description: The main emphasis of this course will be on interactive debates for exploring some of the most acute environmental issues and the social response to those issues. The perspectives of comparative studies of social issues and phenomena will be analysed by studying various social issues with emphasis on environment and nature protection and conservation.</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	The grading is based on students' participation in class activities (30%) and final individual research reports (60%: mid-term 35% and final 35%). It is expected that this course will be of use for the students who prepare for their MA research plans and theses.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。 Students will be given feedbacks of their assignments during instruction.</p>						
履修条件・注意事項	<p>The instruction will be given in English. 授業は英語で行う。受講に際しては、必ず授業内容についての予習・復習に取り組み、疑問点は教員に確認すること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	Tuesdays 12:45-13:30 (classroom)						
	授業計画						担当者
	1. Guidance for the course plan						Merviö
	2. Social scientific approaches						Merviö
	3. Social awareness						Merviö
	4. Environmental issues and EU						Merviö
	5. Environmental issues in USA						Merviö
	6. Environmental issues in Asia						Merviö
	7. Modernisation						Merviö
	8. Reflexivity						Merviö
	9. Water issues						Merviö
	10. Global warming						Merviö
	11. Wild birds and whaling						Merviö
	12. Environmental politics						Merviö
	13. NGO in environmental issues						Merviö
	14. Environmental governance						Merviö
	15. Nature conservation						Merviö
	16. Final test						Merviö

教科書			
教・書籍名1	Evolution of International Environmental Regimes: The Case of Climate Change	教・出版社名1	Cambridge Univ Press
教・著者名1	Schiele, Simone	教・I S B N 1	978-1316603499
教・書籍名2	Comparative Environmental Politics: Theory, Practice, and Prospects	教・出版社名2	The MTT Press
教・著者名2	Steinberg, Paul F	教・I S B N 2	978-0262693684
参考書			
参・書籍名1	Global Commons, Domestic Decisions: The Comparative Politics of Climate Change	参・出版社名1	The MTT Press
参・著者名1	Harrison, Kathryn & Sundstrom, Lisa McIntosh (eds)	参・I S B N 1	978-0262514316
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅰ（大学院授業）			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>テーマ：「身体」と「文化」との関連性</p> <p>到達目標：近現代社会が抱えていた陥穽が、さまざまな社会問題になって表面化しているが、「文化と身体」との関わり方の軽視であることを理解する。</p> <p>文化と身体、そして社会の三者は密接不可分である。だが、近代のスタート時にデカルトが「我思う、故に我あり」と語ったが、近現代社会は「身体」が問題にされず精神的に「自由な個人」が社会を構成するとされてきた。この意味で精神的な規範や価値としての「文化」と「身体」、そして「社会」との関連性を再考する重要性を理解し議論できることが目標である。</p> <p>また、この演習を受講生したが院生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
授業概要	<p>社会と文化の問題において行為や態度を議論することがあっても「身体」を取り上議論をすることはめったになかった。だが、「身体」と「社会」、そして文化は深く結びついている。人間の「身体」に慣習が身に付かなければ人間関係さえ成立しない。。そもそも「身体」がなければ、誰かに名前を呼ばれることはないし、この世界の何物にも「触れる」ことさえできない。こうした物と身体との「接触」がなければ覚も働かないので、「精神」の活動も不可能である。そこで、われわれ人間が具体的に持っている「身体」を取り上げ、それを再吟味することで「精神」と「身体」が持つことが「文化」や「社会」に不可欠であることを議論する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義への意見や態度に10点、読書レポート（レジメ）、小論および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジメなどは日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	受講する学生と相談の上、講義利用の文献を決定する。この文献の他、参考文献をとり上げてあるので、それらを読んで整理しレポート（レジメ）を作成し講義内で報告し仲間と議論する。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもあるが、このときに研究倫理を厳守したものであること。						
事前学習・事後学習とその時間	前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。						
オフィスアワー	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
授業計画						担当者	
<p>〈1〉オリエンテーション(種々の相談と自己紹介)〈2〉感覚の訓練と教育〈3〉身体と知覚、そして意味喪失</p> <p>〈4〉宗教儀礼としての芸能と祭り〈5〉身体の分節と衣装〈6〉坐の文化と安楽な姿勢〈7〉歌うことと自分の声の誕生〈8〉同調する身体</p> <p>〈9〉個人化における身体接触〈10〉相互行為における挨拶〈11〉聖の接吻・俗の接吻〈12〉耳の世界と眼の世界〈13〉身体とことばの「同時性」〈14〉身体における「共同の現在」〈15〉身体と文化と、そして社会との関連性を講義して、最後に単位認定の小論試験をする。</p>						高橋	
教科書							
教・書籍名1					教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1	『身体の宇宙性 ー東洋と西洋ー』				参・出版社名1	岩波書店	

参・著者名1	湯浅泰雄	参・ISBN1	ISBN 4 -00-002936-3
参・書籍名2	精神・自我・社会	参・出版社名2	人間の科学社
参・著者名2	J. デューイ = G. H. ミード	参・ISBN2	ISBN 4 -8226-0138-2

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅱ（大学院授業）			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>テーマ：精神文化と身体、そして社会の一体性</p> <p>到達目標：春期に続き「文化と身体と社会」との関係とその重要性が理解できる。</p> <p>ここでは、人間社会における文化と身体との関連を取り上げ、近現代が見落としていた視点を、学生はその理由を含めて調べ考える。なにしろ「身体」の奥底からわき上がる感性や感情と「精神」とを切り離すことが出来る人間はいない。この意味で、「文化と身体と社会」をテーマとして取り上げながら、それらの関わりを学生が熟考し議論できるように講義を進める。</p> <p>また、この演習を受講生したが院生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
授業概要	人間は健康で元気であるときほとんど自己の「身体」には配慮しない。「身体」に異常がなければ意識することが少ないからである。ある意味でだが、これは自己自身を自覚していないことに等しい。でも、われわれが健康であるならば「身体」など問題にしなくてもよいという考え方がある。それでよいのか。だが、たとえそうであっても人間は食べなければ生きては行けない。見るや聞く、触れるなど、いわゆる感覚の根源も、時間の経過とともに老いる無常感も、あるいは他者と具体的に接触する社交性も、いずれも「身体」があってこそ可能となる。そこで、ここでは「身体と文化」との関わりをテーマとしながら、人間の「精神」と文化社会との関わりを学生と一緒に話し合う予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義への意見や態度に10点、読書レポート（レジメ）、小論および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジメなどは日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	受講する学生と相談の上、講義利用の文献を決定する。この文献の他、参考文献をとり上げてあるので、それらを読んで整理しレポート（レジメ）を作成し講義内で報告し仲間と議論する。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもあるが、このとき研究倫理を厳守したものであること。						
事前学習・事後学習とその時間	前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。						
オフィスアワー	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
授業計画						担当者	
<p>〈1〉オリエンテーション(相談と説明、自己紹介) 〈2〉意識する・しない身体 〈3〉「食」と「意識しない身体」 〈4〉老病死と健康との文化的文脈 〈5〉「心身」の二元論と「身心一如」 〈6〉生苦と「諦観の文化」 〈7〉「お陰さま」と「型の文化」 〈8〉身体における同調性と自律性 〈9〉「時の文化」と「生」の構造 〈10〉「生」における「時」と「道」 〈11〉時令思想と「道の儀礼」 〈12〉「業」と「共業」の関係 〈13〉「共業」と「世間」、そして社会 〈14〉「身心一如」の文化と社会構造 〈15〉日本文化と身体と社会との連関性 〈16〉期末単位認定の小論試験と、それぞれのテーマの下に講義していく。</p>						高橋	
教科書							
教・書籍名1				教・出版社名1			
教・著者名1				教・ISBN1			
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			
参考書							
参・書籍名1	精神・自我・社会			参・出版社名1	J. デューイ＝G. H.		

			ミード
参・著者名1	人間の科学社	参・ISBN1	ISBN 4 -8226-0138-2
参・書籍名2	身体 ー東洋的身心論の試みー	参・出版社名2	創文社
参・著者名2	湯浅泰雄	参・ISBN2	

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅲ (大学院授業)			担当者	李 分一	
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態 講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 					
到達目標	<p>この講義のテーマは、「アジア地域研究」とする。</p> <p>21世紀初頭の世界は、あらゆる分野と領域においてグローバル化（世界化）とリージョナリゼーション（地域化）が同時進行している。これらの視点と認識をしっかりと理解することが大切である。</p> <p>この講義の到達目標は、多様で多面的なアジアの様々な姿を理解することにある。また、この講義を受講すれば、国際地域研究とは何か、そしてどのように進めるべきかなどの知識を身に付けることができる。</p>					
授業概要	<p>21世紀初頭の世界は、あらゆる分野と領域においてグローバル化（世界化）とリージョナリゼーション（地域化）が同時進行している。この講義では、「東アジア共同体」構想の問題を追及する。東アジア共同体構想をめぐる視点と現状、そして実現への道筋などについて、多面的・総合的な研究、国際・国内の相互比較論的接近、そして地域と国際の結合（融合）という三つの学び方から探求する。</p> <p>ちなみに、この講義を受講すれば、教員の専修免許（中学社会・高校公民・高校地理歴史）が取得可能である。</p>					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / プレゼンテーション					
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（20%）によって評価する。提出物は授業中にフィードバックを行う。					
ルーブリック評価						
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。					
履修条件・注意事項	<p>(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>					
事前学習・事後学習とその時間	<p>(1) 参加型授業のために、受講者は事前課題を調べた上で参加すべきである。授業は、この課題をめぐって討論式で行う。</p> <p>(2) 予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。</p>					
オフィスアワー	水曜日5時限目（9304研究室）					
授業計画					担当者	
1.オリエンテーション					1.李 分一	
2.中韓両国の視点と立場					2.李 分一	
3.東アジアの地域経済協力					3.李 分一	
4.日韓両国の視点と立場					4.李 分一	
5.東アジアにおける金融協力					5.李 分一	
6.日中両国の視点と立場					6.李 分一	
7.東アジア経済共同体とその構築					7.李 分一	
8.ASEANの視点と立場					8.李 分一	
9.華人ビジネスネットワーク					9.李 分一	
10.東アジアの華人経済と社会					10.李 分一	
11.日本のエレクトロニクス					11.李 分一	
12.日本のアジア戦略					12.李 分一	
13.東アジア共同体構築					13.李 分一	
14.越境移民の現状					14.李 分一	
15.越境移民の将来					15.李 分一	
16.定期試験					16.李 分一	
教科書						

教・書籍名1	東アジア共同体の構築	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	西口清勝・夏剛	教・ISBN1	4-623-04615-X C3331
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅵ（大学院授業）			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年／ 2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜4限	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>この講義のテーマは、グローバル化する「東アジアの政治経済論」である。現存のグローバル化は、トランスナショナル化でもある。それは、国境を越えた繋がりが拡大し、深まっている過程と言える。その意味で、国の枠を超えた関係が求められる。東アジアの政治経済論も例外ではない。こうした中で、東アジアの課題は東アジアで考え、また東アジア紛争は東アジアで解決させようとする内発的な動きが顕在化しつつある。</p> <p>この講義を受講すれば、東アジア政治経済の位相（現状）と行方（今後）が理解でき、しかも域内緒問題を統合的に捉えながら、複合的に考える力（総合力）を身に付けることができる。</p>						
授業概要	<p>最近の東アジア情勢は、日々ごとに流動性の速度が速い。ところが、地域情報抜きにしては我々の生活について何事も理解できないのが現状である。東アジアの政治経済に関する幅広い知識と教養、そして視野を持つ必要性はここにある。戦後東アジア諸国は大きな変動を成し遂げており、現在の変わりも顕著である。域内諸国は、独立、権威主義支配、急速な工業化、通貨危機、民主化、グローバル化という共通の経験を経て、大きく変貌しつつある。この授業では、各国・地域の政治経済問題に関する個別の具体的かつ重要なイシューを取り扱う。</p> <p>ちなみに、この講義を受講すれば、教員の専修免許（中学社会・高校公民・高校地理歴史）が取得可能である。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験（80％）、提出物（20％）によって評価する。課題に対するフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>(1) 参加型授業のために、授業者は事前課題を調べた上で参加すべきである。授業は、この課題をめぐって討論形式で行う。</p> <p>(2) 受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。</p>						
オフィスアワー	水曜日5時限目（9304研究室）						
	授業計画					担当者	
1.オリエンテーション						1. 李 分一	
2.アジア政治の理解						2. 李 分一	
3.アジア経済の理解						3. 李 分一	
4.アジア政治経済の理解						4. 李 分一	
5.アジアの工業化とグローバル化						5. 李 分一	
6.アジア政治体制の変動						6. 李 分一	
7.アジアをめぐる国際関係						7. 李 分一	
8.アジアの姿①：日本						8. 李 分一	
9.アジアの姿②：中国						9. 李 分一	
10.アジアの姿③：韓国						10. 李 分一	
11.アジアの姿④：台湾						11. 李 分一	
12.アジアの姿⑤：インドネシア						12. 李 分一	
13.アジアの姿⑥：ベトナム						13. 李 分一	
14.アジアの姿⑦：フィリピン						14. 李 分一	
15.アジアの姿⑧：タイ						15. 李 分一	
16.定期試験						16. 李 分一	

教科書			
教・書籍名1	アジアの政治経済・入門	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	片山裕・大西裕	教・ISBN1	4-641-18344-9
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅶ（大学院授業）			担当者	岡崎 郁子		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	台湾は長いあいだ外来政権に支配された歴史をもつ地域・社会である。民族・言語・社会形態を見ても実に多様性に富む。ここでは複雑に絡む台湾・中国・日本の歴史を読み解くことをテーマとしている。それによって東アジア全体、ひいては世界の未来を見据える視点を養うのが到達目標である。						
授業概要	国連に加盟していない一地域ということで、隣国でありながらあまり認識されてこなかった台湾を取り挙げる。台湾の自然環境・社会環境を含むあらゆる特色と個性を、講義を通じて概観する。この科目は専修免許に該当する（中学社会・高校公民）。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	単位認定試験（60％）、授業姿勢（40％）による総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題、小テスト、試験等は、授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業時に予習（2時間）と復習（2時間）をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	金曜日授業の前後						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						岡崎	
2. 誰の歴史か？						岡崎	
3. 先史時代の台湾（上）						岡崎	
4. 先史時代の台湾（下）						岡崎	
5. 先住民（上）						岡崎	
6. 先住民（下）						岡崎	
7. オーストロネシア語族						岡崎	
8. 「美麗島」の出現						岡崎	
9. 漢人の故郷（上）						岡崎	
10. 漢人の故郷（下）						岡崎	
11. 漢人と先住民の関係（上）						岡崎	
12. 漢人と先住民の関係（下）						岡崎	
13. 移民開墾社会（上）						岡崎	
14. 移民開墾社会（下）						岡崎	
15. 日本統治時代						岡崎	
16. 単位認定試験						岡崎	
教科書							
教・書籍名1	図説台湾の歴史（増補版）			教・出版社名1	平凡社		
教・著者名1	周婉窈			教・ISBN1	ISBN978-4-582-41109-6		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			
参考書							
参・書籍名1				参・出版社名1			
参・著者名1				参・ISBN1			
参・書籍名2				参・出版社名2			

参·著者名2

参·ISBN2

授業科目名	地域社会論特殊講義Ⅷ (大学院授業)			担当者	岡崎 郁子		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
SDGs 関連項目	<p>5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 12. つくる責任・つかう責任 / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	台湾は長いあいだ外来政権に支配された歴史をもつ地域・社会である。民族・言語・社会体制を見ても実に多様性に富む。ここでは複雑に絡む台湾・中国・日本の歴史を読み解くことをテーマとしている。それによって東アジア全体、ひいては世界の未来を見据える視点が養えるようになる。						
授業概要	国連に加盟していない一地域ということで、隣国でありながらあまり認識されてこなかった台湾を取り上げる。台湾の自然環境・社会環境を含むあらゆる特色と個性を、講義を通じて概観する。この科目は専修免許に該当する(中学社会・高校公民)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / プレゼンテーション						
評価方法と割合	単位認定試験 (60%)、授業姿勢 (40%) による総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題、小テスト、試験等は、授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業時に予習 (2時間) と復習 (2時間) をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	金曜日授業の前後						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション						岡崎	
2. 日本統治時代 (上)						岡崎	
3. 日本統治時代 (下)						岡崎	
4. 二大抗日事件						岡崎	
5. 植民地と近代化 (上)						岡崎	
6. 植民地と近代化 (下)						岡崎	
7. 知識人の反植民地運動						岡崎	
8. 台湾の芸術世界						岡崎	
9. 戦争下の台湾 (上)						岡崎	
10. 戦争下の台湾 (下)						岡崎	
11. ポストコロニアルの泥沼						岡崎	
12. 二二八事件 (上)						岡崎	
13. 二二八事件 (下)						岡崎	
14. 白色テロの時代						岡崎	
15. 党国教育						岡崎	
16. 単位認定試験						岡崎	
教科書							
教・書籍名1	図説台湾の歴史 (増補版)			教・出版社名1	平凡社		
教・著者名1	周婉窈			教・ISBN1	ISBN978-4-582-41109-6		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			
参考書							
参・書籍名1				参・出版社名1			
参・著者名1				参・ISBN1			

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N2	

授業科目名	産業社会論特殊講義Ⅰ（大学院授業）			担当者	姜 明求	
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態 講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 					
到達目標	<p>「経営理論の理解」がテーマである。到達目標は、単に、教科書をマスターするのではなく、自分なりの問題意識を持つとともにマネジメントの基本的な分析枠組みを理解することである。また、マネジメント及び経営理論、思想の変遷を体系的に理解するとともに、読解力の養成、文章のまとめる能力、情報の収集力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。</p>					
授業概要	<p>現在、企業を取り巻く環境は激変し、グローバル化、情報化が急激な勢いで進展している。企業はこれらの変化に迅速かつ柔軟に対応するための管理能力の構築が求められている。本授業では、マズロー、チャンドラー、ドラッカーといった幾多の経営学者・経営思想家が、どのような時代背景の中で経営理論を編み出したのかという流れを理解し、深く学習することができる。また、現代の企業が抱える問題を解決するための貴重な知識・材料を得ることができる。</p> <p>授業の概要は、科学的管理法の登場、フォードの大量生産、アルフレッド・スローンの経営モデル、ホッソ実験と動態的管理、日本の経営などである。この授業はマネジメント理論の基本的なことを理解するとともに、マネジメント理論の多様なアプローチやものの見方を学ぶことを目的とする。</p> <p>また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジюмеを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。テキストは変更可能である。</p>					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション					
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。					
ルーブリック評価						
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。					
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。					
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。					
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。					
授業計画					担当者	
1.オリエンテーション					姜	
2.50年後の日本的経営					姜	
3.再設計の10年					姜	
4.社会の高齢化					姜	
5.ケースの研究					姜	
6.日本的経営					姜	
7.ケースの研究					姜	
8.空前の嵐に見舞われた企業財務					姜	
9.研究開発という必須の課題					姜	
10.企業統治					姜	
11.ケースの研究					姜	
12.対日直接投資はほんとうに少ないのか					姜	
13.変化する国際環境					姜	
14.ケースの研究					姜	
15.総合復習					姜	

16.単位認定試験		姜	
教科書			
教・書籍名1	マネジメントの世紀1901-2000	教・出版社名1	東洋経済
教・著者名1	岸本義之・黒岩健一郎訳	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	産業社会論特殊講義Ⅳ（大学院授業）			担当者	姜 明求	
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態 講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 					
到達目標	到達目標は、単に教科書をマスターするのではなく、自分なりの問題意識を持つと共に国際経営の基本的な分析枠組みを理解することにある。また、経営学と国際経営の基礎知識を身につけると共に、情報収集力、読解力の養成、コミュニケーション能力、それに基づいて国際経営の具体的な事例を分析できるようになることが目標である					
授業概要	<p>世界経済がグローバル化し、地球規模で企業が競争する時代になった。この時代を生き抜くには、経営のグローバル化が欠かせない。</p> <p>企業の国際化とは、企業が国境を越えて経営をすることである。国境を越えれば、国が変わり、人種や文化が変わる。経済の発展段階も様々である。実に多様な要因が、国境を越えると変わることである。ということで、国際経営論は自国とは異なる経営環境のもとでビジネスを進めるために不可欠な知識である。</p> <p>講義の概要は、グローバル化とは、日本企業のグローバル化への奇跡、日本企業へのグローバル化のイパクト、グローバル企業の経営戦略、グローバル企業の組織、グローバル企業の生産などである。この授業は企業がグローバル化を展開するときに必要なとされる様々な知識、国際経営の基本的なことを学ぶことを目的とする。</p> <p>また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。テキストは変更可能である。</p>					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション					
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。					
ルーブリック評価						
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。					
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。					
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回2時間)と演習後には復習(毎回2時間)をすること。					
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。					
授業計画					担当者	
1.オリエンテーション					姜	
2.現代企業の発生					姜	
3.マクドナルドとモスバーガー					姜	
4.新しい事業の創造					姜	
5.GEの企業革新					姜	
6.M&Aと外部資源の利用					姜	
7.ソニーのコンピュータ映画会社買収					姜	
8.東芝の選択経営					姜	
9.デジタル化への富士写真フィルムの対応					姜	
10.いかに国際化するか					姜	
11.日本的経営は何					姜	
12.日本の生産システム					姜	
13.トヨタの生産方式					姜	

14.松下電器産業の組織改革		姜	
15.全体のまとめ		姜	
16.単位認定試験講義			
教科書			
教・書籍名1	ケースブック国際経営	教・出版社名1	有斐閣ブックス
教・著者名1	吉原英樹・板垣博 編	教・ISBN1	ISBN4-641-08683-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	産業社会論特殊講義VI (大学院授業) 集中E			担当者	湧田 英明		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	日本的経営という場合には特殊日本的な経営方式が存在するか否かという問題があるが、日本の会社が「実際に」 どういう経営をしているかという即事的な認識という課題もまた存在する。これが本講義のテーマである。地理 的、歴史的環境の検討、日本的経営に関する諸論を踏まえつつ、経営事例を取り上げて研究者としてどのように分 析していくか、受講者とともに考えていこうと思う。方法論及び実態分析法を身につけることを目標とする。本講 義は中高社会科専修免許を求める人に更なる専門的知見を提供することを念頭に置いている。						
授業概要	日本的経営論をレビューしつつ、如上の目標を達成するべく方法論的考察を行う。講義、場合によってはコロキ ユム方式による文献購読読論を取り入れる。事例研究は講義の進捗を見ながら適宜、資料を配布する。						
アクティブラーニングの 内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	課題レポート70%。諸文献の理解度、また、講義時に講師が発する質問への対応30%も評価の対象となる。 課題等については、授業でフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題は講義時間内に解説評価する。試験は結果を全体の評価表を配付して質問に答える。こととする。						
履修条件・注意事項	文献購読に際しては下読み及び下調べが必要となることは言うに及ばないことである。また、事例研究の資料につ いても同様である。討議の際の質問も、当該課題についての予習を前提にしてなされるものである。履修者の予習 が講義内容を決定する側面もあるので各自、責任をもって参加してもらいたい。						
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に配布される資料、課題について予習復習は不可欠である。各2時間						
オフィスアワー	講義の前後 受講者には常時、連絡できるようにする。						
授業計画						担当者	
教科書							
教・書籍名1	奥田健二『人と経営 日本経営管理史研究』マネジメント社1985、参考文献は適 宜、紹介する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・ISBN1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・ISBN2		

授業科目名	産業社会論特殊講義Ⅶ（大学院授業）			担当者	湧田 英明		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	組織とリーダーシップをテーマとする。 組織理論とリーダーシップ研究とを関連づけながら企業組織の今日的課題を概観する。リーダーの社会的機能、社会的土壌との関係についても考察する。受講者自身、組織理論とリーダーシップ理論の概説ができるようになることが目標である。本講義は中高社会科専修免許を求める人に更なる専門的知見を提供することを念頭に置いている。						
授業概要	組織文化とリーダーシップ、行為論から見た組織、行為としてのリーダーシップを支柱に講義、購読、演習を交えて組織とリーダーシップについての知見を深めていく。E. H. Schein、J. D. Thompsonの著作を購読する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度 30%、課題レポート30%、試験40%で評価する。課題等については、授業でフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は講義時間内に解説評価する。試験は結果を全体の評価表を配付して質問に答える。こととする。						
履修条件・注意事項	組織理論は内部に、社会的、政治的、経済的、文化的諸要因を抱え持った構築体である。社会科学の総合的知見を身に着けるために受講者には多くの文献にあたってもらふ。組織理論とリーダーシップ理論を中心に講義及びコキウム方式による購読を交えて進める。						
事前学習・事後学習とその時間	課題提出のため予習復習すること。各2時間						
オフィスアワー	講義の前後 受講者には常時、連絡できるようにする。						
授業計画						担当者	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
講義と演習						講義	
教科書							
教・書籍名1	古沢昌之『グローバル人材資源管理論』、白桃書房。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指摘する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅰ（大学院授業）			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	学年指定無し		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>スポーツにおける様々なマネジメントをテーマとして、自らスポーツマネジメントできる知識や能力を身につける。</p> <p>そのためにも、スポーツ推進の意義・価値をふまえたスポーツ環境整備の現実と課題、及びその方策について理解する。加えて、院生がスポーツに関わる場面において、「ムリ」「ムダ」「ムラ」の少ない効果的なマネジメントができる。</p>						
授業概要	<p>体育・スポーツの推進に相応しいスポーツマネジメントの考え方、経営組織と事業運営について考察する。スポーツマネジメントに関する先行研究を取り上げ、これまで議論されてきたことについても検討する。さらに、自分自身がスポーツに関わる現場においてマネジメントできる能力が身につくようグループディスカッションを主体とした方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>毎回の講義終了後の小レポート、議論への参加（40％）課題レポートおよび発表（60％）</p> <p>評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので最終試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>「スポーツ」に関する文献を数多く精読すること。事前に課題を出し、それについて調べたことを元に、参加型の授業を行うので、予習が必須である。また、授業終了後には、その内容を復習し小レポートにまとめること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>初回授業より毎回資料を配布するので、その資料を精読し、自分の考察をまとめプレゼンテーションできるよう、2時間の予習をしておくこと。また、授業終了後は、修士論文につなげるよう毎回2時間復習すること。</p>						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画					担当者		
1.スポーツビジネスと他のビジネスとの違い					高藤		
2.スポーツマネジメントの本質					高藤		
3.スポーツマネジメントとは					高藤		
4.ミッション・ビジョン・ドメイン					高藤		
5.ステークホルダー					高藤		
6.戦略の基本					高藤		
7.スポーツが持つ公共性					高藤		
8.ジェネラルマネジャーの役割					高藤		
9.顧客とサポーター組織					高藤		
10.顧客満足とは					高藤		
11.自治体との関わり方					高藤		
12.スポーツ施設のマネジメント					高藤		
13.メディア・トレーニング					高藤		
14.トップアスリートのマネジメント					高藤		
15.スポーツマネジメントおよび経営学の課題と展望					高藤		
16.最終レポート・プレゼンテーション					高藤		
教科書							
教・書籍名1	スポーツ団体のマネジメント入門			教・出版社名1	同文館出版		
教・著者名1	新日本有限責任監査法人			教・I S B N 1	978-4-495-20181-4		
教・書籍名2	リーグが追及する「地域密着型クラブ経営」が未来にもたらすもの			教・出版社名2	青娥書房		
教・著者名2	大山 高			教・I S B N 2	978-4-7906-0344-3		

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会学特殊講義Ⅱ（大学院授業）			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	学年指定無し		開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜2限
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／11. 住み続けられるまちづくりを／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>体育・スポーツの社会学的研究をテーマとして、スポーツを取り巻く社会との関連についての知識を身につける。そのためにも、スポーツの現状について理解するとともに、その研究成果の基礎的知識を理解する。加えて、スポーツ社会学に関する修士論文作成につながる能力が高めることができる。</p>						
授業概要	<p>体育・スポーツの現状と課題について、社会学的研究視点から考察する。スポーツ社会学などの先行研究を取り上げ、これまで議論されてきたことについて検討する。さらに、自分自身がスポーツに関わる現場においてマネジメントできる能力が身につくようグループディスカッションを主体とした方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回の講義終了後の小レポート、議論への参加（40％）課題レポートおよび発表（60％）なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので最終試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「スポーツ」に関する文献を数多く精読すること。事前に課題を出し、それについて調べたことを元に、参加型の授業を行うので、予習が必須である。また、授業終了後には、その内容を復習し小レポートにまとめること。						
事前学習・事後学習とその時間	初回授業より毎回資料を配布するので、その資料を精読し、自分の考察をまとめプレゼンテーションできるよう、2時間の予習をしておくこと。また、授業終了後は、修士論文につなげるよう毎回2時間復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、水曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
1.スポーツ社会学の必要性						高藤	
2.スポーツの社会学的理解						高藤	
3.スポーツの文化システム						高藤	
4.スポーツの社会システム						高藤	
5.スポーツと政治・経済						高藤	
6.日本人のスポーツ観						高藤	
7.日本的スポーツ集団の形成とその性格						高藤	
8.日本的スポーツ組織の歴史的・社会的性格						高藤	
9.生涯スポーツ・コミュニティスポーツ						高藤	
10.日本のスポーツ政策						高藤	
11.スポーツとコマースリズム						高藤	
12.スポーツビジネスにおけるマネジメント（外部講師）						高藤	
13.体育の社会的構造と機能						高藤	
14.体育の学習指導過程						高藤	
15.今後の体育・スポーツの社会学的課題						高藤	
16.最終レポート・プレゼンテーション						高藤	
教科書							
教・書籍名1	スポーツ社会学講義			教・出版社名1	大修館書店		
教・著者名1	森川貞夫・佐伯聡夫			教・ISBN1	978-4-469-26140-0		
教・書籍名2	スポーツ戦略論			教・出版社名2	大修館書店		
教・著者名2	上田滋夢・堀野博幸・松山博明			教・ISBN2	978-4-469-26825-6		
参考書							

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅲ（大学院授業）			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	学年指定無し	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「健やかで豊に生きるための生涯スポーツ活動の実現」をテーマとし、生涯スポーツの概念、内容への理解を深めることを目標とする。						
授業概要	近年、我が国における社会変化と国民の健康・体力づくりへの関心の高まりが示す生涯スポーツ社会の実現への需要の高まりは、現代社会におけるスポーツ活動、健康の維持・増進のための運動、生きがいづくりといった多様なニーズを担うものである。本講義では、社会の変化と生涯スポーツ活動の在り方について理論を学び、教養的な知識を得ることができる。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％）及び発表、ディスカッションへの参加を重視する（40％）。また受講態度についても評価の対象とする（10％）。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。適宜、レポートの作成・提出を行う。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくる。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
オリエンテーション 生涯スポーツの概念 生涯スポーツの理念 社会と生涯スポーツ 少子社会と生涯スポーツ 高齢社会と生涯スポーツ 健康社会と生涯スポーツ 国際社会と生涯スポーツ 社会変化と生涯スポーツ 現代文化における生涯スポーツ 余暇活動と生涯スポーツ 都市部と生涯スポーツ 農村部と生涯スポーツ ニュースポーツと生涯スポーツ 社会科学と生涯スポーツ まとめ 単位認定試験						天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1	適宜指示する				参・出版社名1		

参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅳ（大学院授業）			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	学年指定無し	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：研究論文の完成と研究課題の総括－研究成果と課題－ 到達目標：研究方法のルールに従い、論文をまとめあげることを通して、研究のオリジナリティと実証的な成果を明示することを目標とする。論文作成にあたっては、各研究方法に基づく十分な検討を実施し、結論づけていく能力を向上させることが目標である。また、どのような研究も、探求においては困難さや課題点が伴うため、その研究の限界や、残された課題点についても議論を重ね、今後の研究活動の見通しを立てることができる。						
授業概要	受講学生の研究テーマに沿いながら、研究方法を検討し、その手法を学んでいく。また、研究テーマに即した領域の文献、先行研究の内容を理解しながら、着眼点を掘り下げ、議論していく。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢（調査手順の進め方）やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
研究結果の検討と論文作成（1）目的・方法・仮説 研究結果の検討と論文作成（2）結果・結論 研究結果の検討と論文作成（3）全体の流れ 論文内容の考察に関する質疑応答（1）考察のための論述 論文内容の考察に関する質疑応答（2）考察からのオリジナリティの検討 論文内容の考察に関する質疑応答（3）研究の限界と課題点 論文の記述内容の修正と質疑応答（1）論文内容の修正 論文の記述内容の修正と質疑応答（2）引用、注記の修正 論文の記述内容の修正と質疑応答（3）データ類の表記の修正 報告・発表などの準備（1）要旨作成 報告・発表などの準備（2）パワーポイントの作成 報告・発表などの準備（3）プレ発表 報告・発表などの準備（4）ポイントの検討 研究全体の内容の見直し・修正（1）質疑応答内容の活用 研究全体の内容の見直し・修正（2）誤字等文章全体の修正 まとめ						天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅴ（大学院授業）			担当者	竹内 研	
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態 講義
年次	学年指定無し	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに</p> 					
到達目標	『人間の身体性』というテーマに関して、社会における人間の有様、社会に対する認識、社会への働きかけ、社会との関係性などについて理解し、考察を行えるようになる。ともすれば社会の構成要素（員）の一部として存在するかのように捉えられがちな現代社会における人間の存在感について、その身体に立脚した主体的存在であるとの概念を確立できることを到達目標とする。					
授業概要	近年、様々分野で、人間の身体性に関する問い直しが行われている。一方、機械論的また心身二元論的な概念を基盤とする思考は、相も変わらず根強くかつ幅広く展開されている。しかるに、人間の様々な認識においても、精密科学の発展の成果も相まって、主体性ある人間の主観の重要性に社会の目が向き始めていることも事実である。現代社会において、人間の身体性に関わる文化としては最たるものである、スポーツ、武術、ボディワークを材料として、社会的存在である人間の特性について考察し、人、社会、文化、教育などにおける認識の基盤を得る。					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション					
評価方法と割合	授業時に課すレポートで30%、最終レポートで70%にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。					
ルーブリック評価						
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。					
履修条件・注意事項	毎回の授業の予習と復習は十分に行うこと。					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読を2時間、授業後にその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えること2時間を行うこと。					
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室(6330)にて					
授業計画					担当者	
①オリエンテーション					竹内研	
②身体性に関する概説					竹内研	
③主体と客体					竹内研	
④主体性と環界としての社会					竹内研	
⑤間主体性と人間と社会					竹内研	
⑥身体運動文化における身体性					竹内研	
⑦厳密科学と人間学的運動学					竹内研	
⑧スポーツ科学の限界性					竹内研	
⑨記号現象としての身体運動文化					竹内研	
⑩人間の関係性と身体					竹内研	
⑪競技スポーツの社会的存在意義と身体性					竹内研	
⑫武術,ボディワークの社会的存在意義と身体性					竹内研	
⑬身体知					竹内研	
⑭現代社会における身体知の育成					竹内研	
⑮まとめと総括					竹内研	
⑯最終レポート					竹内研	
教科書						
教・書籍名1	ゆるめる身体学			教・出版社名1	青山社	
教・著者名1				教・ISBN1		
教・書籍名2				教・出版社名2		
教・著者名2				教・ISBN2		
参考書						

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義VI (大学院授業)			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	学年指定無し	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『社会というシステムの機能』をテーマとし、さらに変容・発展していくためには、言うまでもなく人材の育成が重要である。育成される人材は当然のことながら、社会性を備えた人材でなくてはならず、また育成は社会においてなされるものである。本講義では、社会とのかかわり、人間対人間の関係性の中で執り行われる、人間の成長とその育成に関する、方法的原理を理解することを到達目標とする。						
授業概要	現代社会に生きる人々の育成において、身体運動文化であるスポーツや武術が多くの人々に対して、その場となっているのは、多言を要しない。加えて、これらの場における育成方法には、古今東西の文化的特性を踏まえて、実に様々な方法論や原則論が存在する。言い換えればそれは、その時その場での社会規範や思想を反映している。また、高度情報化社会、多様な価値観の時代、超高齢化社会そしてグローバル化などによって、従来の教育的・心理学的原則にのっとった方法論のみでは過不足が生じる。本講義では、人間同士及び人間と社会の関係性を基軸とする、新たな原則論にのっとった、人材の教育・育成に関する方法論を展開する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポートで30%、最終レポートで70%にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業の予習と復習は十分に行うこと。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索・抄読を2時間、授業後はその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えることを2時間行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室(6339)にて						
授業計画						担当者	
①オリエンテーション						竹内研	
②ゲシュタルト						竹内研	
③ホメオスタシスと認知的不協和						竹内研	
④情報空間とセルフイメージ						竹内研	
⑤RASとスコトマ						竹内研	
⑥セルフエフィカシー						竹内研	
⑦コレクティブエフィカシー						竹内研	
⑧ソシオメトリック構造						竹内研	
⑨ラポール						竹内研	
⑩ソーシャルサポート						竹内研	
⑪ゴールの設定とステータスクオ						竹内研	
⑫コンフォートゾーン						竹内研	
⑬情動記憶						竹内研	
⑭創造的無意識						竹内研	
⑮まとめと総括						竹内研	
⑯最終レポート						竹内研	
教科書							
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方				教・出版社名1	フォレスト出版	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅶ (大学院授業)			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	学年指定無し	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜5限
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは「健康と社会」である。健康の社会的な意義を理解し、健康と現代社会の理想的なあり方について考える。私たちの健康や生活をとりまくさまざまな社会状況を理解することで、社会と健康との関わりについて理解を深めることができる。将来にわたる健康に対する考え方を学び、様々な視点から健康についての問題を提議し、実態や諸課題を整理することを到達目標とする。						
授業概要	健康についての正しい知識に加え、健康に対する考え方について学ぶ。それらをふまえた上で、現代社会における健康や病気の社会的要因について把握する。特に、現代社の生活に着目し、健康に関わる諸要因との関連性について講義を進めていく。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート課題（70%）、討議への参加（30%）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施したレポート課題等については講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	主体的な取り組みが必須である。教員はそれを最大限にサポートする。本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	健康のとらえ方					山口英峰	
第3回	現代社会と健康観					山口英峰	
第4回	現代社会と疾病					山口英峰	
第5回	現代社会の生活と健康（1）労働					山口英峰	
第6回	現代社会の生活と健康（2）休養と心					山口英峰	
第7回	現代社会の生活と健康（3）ストレス					山口英峰	
第8回	現代社会の生活と健康（4）喫煙					山口英峰	
第9回	現代社会の生活と健康（5）飲酒					山口英峰	
第10回	現代社会の生活と健康（6）睡眠					山口英峰	
第11回	現代社会の生活と健康（7）食生活					山口英峰	
第12回	現代社会の生活と健康（8）生活リズム					山口英峰	
第13回	現代社会の生活と健康（8）運動不足					山口英峰	
第14回	現代社会における生き方					山口英峰	
第15回	総括					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	中高年の運動実践ハンドブック				教・出版社名1	昭和堂	
教・著者名1	大久保衛 編著 他				教・ISBN1	978-4-8122-0749-9	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・ISBN1		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会論特殊講義Ⅷ (大学院授業)			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2015～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	学年指定無し	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜5限	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	社会と健康との関係性について理解し、健康と社会の理想的なあり方について様々な視点から考える。学生は、社会や環境に対して健康的によりよく変えていくための視点、考え方を身につけることができる。健康に関連していることを多角的に学ぶ。様々な視点から健康に関わる諸問題を提議し、実態や諸課題を整理することを到達目標とする。						
授業概要	人の健康について、生活の場である地域社会、労働、家族等の関連において理解したうえで、健康に生きるための方策を様々な視点から探求する。 学生は健康に関する制度政策についても理解することができる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	講義中のレポート（70%）、討議への参加（30%）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	主体的な取り組みが必須である。教員はそれを最大限にサポートする。						
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402研究室）において、月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
1	オリエンテーション	講義				1	高原
2	健康とは	講義				2	高原
3	健康づくり施作	講義				3	高原
4	ヘルスプロモーションのあり方	講義				4	高原
5	健康と疾病	講義				5	高原
6	健康と社会のかかわり	講義				6	高原
7	健康と福祉のかかわり	講義				7	高原
8	健康と高齢社会	講義				8	高原
9	高齢者の社会保障	講義				9	高原
10	介護保険と介護予防	講義				10	高原
11	健康と労働	講義				11	高原
12	健康と家族	講義				12	高原
13	健康と地域社会	講義				13	高原
14	健康支援システム	講義				14	高原
15	総括	講義				15	高原
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1	適宜指示する				参・出版社名1		
参・著者名1					参・ISBN1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・ISBN2		

授業科目名	文献研究Ⅰ（大学院授業）			担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「経営学の基本的な分析枠組みの理解」がテーマである。到達目標は、単に教科書をマスターするのではなく、文献の読解やディスカッションなどを通し経営学的なものの方や考え方、自分なりの問題意識を持つと共に経営学の理論、経営学の基本的な分析枠組みを理解することにある。また、経営学の基礎知識を身につけると共に、読解力の養成、コミュニケーション能力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。						
授業概要	講義の概要は、企業のマネジメントとはなにか、戦略とは何か、競争のための差別化、競争優位とビジネスシステム、企業構造の再編成、国際化の戦略、組織構造、などである。この授業は経営学の基本的な理念を理解すると共に、経営学が研究してきた多様なアプローチやものの方やものを学ぶことを目的とする。 また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。また、テキストは変更可能である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
授業計画						担当者	
1.リエンティション						姜	
2.企業のマネジメントとは						姜	
3.戦略とはなにか						姜	
4.競争のための差別化						姜	
5.競争優位とビジネスシステム						姜	
6.多角化と事業ポートフォリオ						姜	
7.企業構造の再編成						姜	
8.国際化の戦略						姜	
9.資本構造のマネジメント						姜	
10.雇用構造のマネジメント						姜	
11.組織と個人ね経営の働き						姜	
12.組織構造						姜	
13.インセンティブシステム						姜	
14.インセンティブシステム						姜	
15.総合復習						姜	
16.単位認定試験						姜	
教科書							
教・書籍名1	ゼミナール経営学入門 第3版				教・出版社名1	日本経済新聞社	
教・著者名1	伊丹敬之・加護野忠勇				教・ISBN1		

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文献研究Ⅱ (大学院授業)			担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「経営学の分析枠組みの理解」がテーマである。到達目標は、単に教科書をマスターするのではなく、文献の読解やディスカッションなどを通し経営学的なものの見方や考え方、自分なりの問題意識を持つと共に経営学の理論、経営学の基本的な分析枠組みを理解することにある。また、経営学の基礎知識を身につけると共に、読解力の養成、コミュニケーション能力、それに基づいて企業の具体的な事例を分析できるようになることが目標である。</p>						
授業概要	<p>講義の概要は、計画とコントロール、経営理念と組織文化、リーダーシップ、ケースの研究、人の配置・育成・選抜、企業成長のパラトックス、場のマネジメント、コーポレートガバナンス、などである。この授業は経営学の基本的な理念を理解すると共に、経営学が研究してきた多様なアプローチやものの見方を学ぶことを目的とする。また、本講義では、教科書を輪読してもらい内容を理解する。受講者は、各章毎に担当者が要約・問題提起のレジュメを作成して報告する。その後、報告に基づいて受講者全員で討論する。授業スケジュールについては、第1回授業時に説明する。テキストは変更可能である。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / グループワーク / プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、単位認定試験(60%)によって総合的に評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション						姜	
2.計画とコントロール、プロセス システム						姜	
3.経営理念と組織文化						姜	
4.リーダーシップ						姜	
5.ケースの研究						姜	
6.ケースの研究						姜	
7.人の配置、育成、選抜						姜	
8.矛盾、学習、心理的エネルギーのダイナミクス						姜	
9.パラタイム転換のマネジメント						姜	
10.企業成長のパラトックス						姜	
11.ケースの研究						姜	
12.場のマネジメント						姜	
13.企業という生き物、経営者の役割						姜	
14.コーポレートガバナンス						姜	
15.全体のまとめ						姜	
16.単位認定試験						姜	
教科書							
教・書籍名1	ゼミナール経営学入門 第3版					教・出版社名1	日本経済新聞社

教・著者名1	伊丹敬之・加護野忠勇	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文献研究Ⅲ (大学院授業)			担当者	岡崎 郁子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年 / 2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>中国という国家を、世界の歴史から捉え直すための文献を教材として選び、現代中国の立ち位置を理解・研究することがテーマである。</p> <p>以上から到達目標は、文革から天安門事件、チベット、台湾、琉球というこれまであまり取り上げられてこなかった事例を、文献を通して読み進めることによって、東南アジア諸国および世界における中国という国家の全体像が理解できるようになる。</p>						
授業概要	<p>1960年代の東南アジア諸国は、民族解放運動の活発化・植民地主義の終焉を迎えていたが、中国は社会主義国家の変質に対して深く憂慮していた時期である。そこから文革が起こり、大規模な政治的迫害をもたらすことになった。その後、米ソの冷戦を経て、世界では民族-国家を超えようという潮流が生まれるが、中国はチベット、台湾、琉球の民族主義と政治的主体性との関係をどのように捉え、いまに至っているのかについて考えていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / プレゼンテーション						
評価方法と割合	単位認定試験 (60%)、授業姿勢 (40%) による総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題、小テスト、試験等は、授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業時に予習 (2時間) と復習 (2時間) をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	水曜日授業の前後						
授業計画						担当者	
1. 中国における1960年代						岡崎	
2. 脱政治化をめぐって						岡崎	
3. 60年代の社会運動						岡崎	
4. 60年代の社会組織						岡崎	
5. 国体制の危機						岡崎	
6. 政治と党						岡崎	
7. 政治イデオロギー						岡崎	
8. 琉球の戦争記憶						岡崎	
9. 琉球アイデンティティ						岡崎	
10. 冷戦との関係						岡崎	
11. 国際規則の巨大な変化						岡崎	
12. 帝国主義国際法						岡崎	
13. 民族解放運動と国際関係						岡崎	
14. カイロ会議と中国						岡崎	
15. 中国と琉球						岡崎	
16. 単位認定試験						岡崎	
教科書							
教・書籍名1	世界史のなかの中国			教・出版社名1	青土社		
教・著者名1	汪暉			教・ISBN1	ISBN978-4-7917-6586-7		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文献研究Ⅳ（大学院授業）			担当者	岡崎 郁子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年／ 2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	中国という国家を、世界の歴史から捉え直すための文献を教材として選び、現代中国の立ち位置を理解・研究することがテーマである。 以上から到達目標は、文革から天安門事件、チベット、台湾、琉球というこれまであまり取り上げられてこなかった事例を、文献を通して読み進めることによって、東南アジア諸国および世界における中国という国家の全体像が理解できるようになる。						
授業概要	1960年代の東南アジア諸国は、民族解放運動の活発化・植民地主義の終焉を迎えていたが、中国は社会主義国家の変質に対して深く憂慮していた時期である、そこから文革が起こり、大規模な政治的迫害をもたらすことになった。その後、米ソの冷戦を経て、世界では民族-国家を超えようという潮流が生まれるが、中国はチベット、台湾、琉球の民族主義と政治的主体性との関係をどのように捉え、いまに至っているのかについて考えていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	単位認定試験（60％）、授業姿勢（40％）による総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題、小テスト、試験等は、授業でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	予習・復習のために指示した課題を毎回点検するので欠席しないこと。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業時に予習（2時間）と復習（2時間）をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	水曜日授業の前後						
授業計画					担当者		
1. 琉球の曖昧性					岡崎		
2. 琉球の政治的選択					岡崎		
3. 東西間のチベット問題					岡崎		
4. オリエンタリズムの幻影					岡崎		
5. 植民地主義とナショナリズム					岡崎		
6. 民族区域自治					岡崎		
7. 多元一体					岡崎		
8. ポスト革命					岡崎		
9. 宗教社会					岡崎		
10. 市場拡張					岡崎		
11. 社会流動					岡崎		
12. 多民族社会					岡崎		
13. 台湾のアイデンティティ					岡崎		
14. 台湾の自治					岡崎		
15. 台湾と中国					岡崎		
16. 単位認定試験					岡崎		
教科書							
教・書籍名1	世界史のなかの中国			教・出版社名1	青土社		
教・著者名1	汪暉			教・ISBN1	ISBN978-4-7917-6586-7		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	赤坂 真人		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ</p> <p>本年度は「大学と教養教育」をテーマとする。アメリカでは大学（学部）は教養教育（リベラルアーツ）に特化し、専門教育は大学院で始まるが、日本では重視されていない。教養はなぜ必要なのかについて考える。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p> <p>到達目標</p> <p>この講義によって学生は人間にとって教養とは何か？自分が生きている意味、世界、歴史の重要性を理解できるようになる。また文献購読とディベートにより論理的思考ができるようになる。</p>						
授業概要	偉大な古典を読むと、著者たちが社会科学のみならず人文科学、哲学、自然科学にも習熟していたことが分かる。我が国の文部科学省は大学の教養課程を廃止してしまったが、これが現代日本の大学迷走に関する一つの原因である。ビジネスの分野で成功のカギを握るのは教養教育によって鍛えられた思考力、コミュニケーション能力である。演習では教養について考えながら、同時に論理的思考、批判的思考、分析的思考、創造的思考を鍛えてゆく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	試験（100％）によって評価する。提出した課題は評価して返却するので復習すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課題を出すので必ずやって授業で報告すること。また論文執筆の資料収集のためにフィールドワークを課すが、その結果も整理して提示すること。それらは教員がチェックして返却する。						
履修条件・注意事項	欠席する場合には必ず連絡すること。						
事前学習・事後学習とその時間	学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。提出した課題は評価して返却するので必ず復習すること。						
オフィスアワー	火曜4限（13：10～16：40）に研究室（9309）にて実施する。						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション：倫理教育（研究倫理に基づく責任ある研究活）						赤坂	
2.教養とリベラルアーツ・一般教育の違い						赤坂	
3.50年代キャンパス文化						赤坂	
4.「教養」という言葉の起源						赤坂	
5.「教養」の定義						赤坂	
6.「教養」と「修養」						赤坂	
7.日本における教養主義の成立						赤坂	
8.学歴エリートの教養主義						赤坂	
9.教養主義の没落						赤坂	
10.ハバーマスによる教養の定義						赤坂	
11.現代日本の教養						赤坂	
12.アメリカの大学の教養教育						赤坂	
13.日本の大学の教養教育の破壊						赤坂	
14.教養主義の破壊とその余波						赤坂	
15.まとめ						赤坂	
16.定期試験						赤坂	
教科書							
教・書籍名1	教養主義の没落			教・出版社名1	中公新書		
教・著者名1	竹内 洋			教・ISBN1	978-412-1017048		
教・書籍名2	社会調査のための計量テキスト分析			教・出版社名2	ナカニシヤ出版		
教・著者名2	樋口 耕一			教・ISBN2	978-4779508035		

参考書			
参・書籍名1	大学という理念 絶望のその先へ	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	吉見俊哉	参・I S B N 1	978-4130530927
参・書籍名2	日本型教養の運命	参・出版社名2	岩波現代文庫
参・著者名2	筒井清忠	参・I S B N 2	978-4006002312

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：研究計画の検討と研究手法の学び－研究活動のための基礎的学び－ 到達目標：受講学生の掲げている計画内容について、目的を明確化するとともに、そのテーマをめぐる一般的な知識、実態や諸課題を整理する。また、研究テーマに沿って、効果的な具体的研究方法を定め、分析を実施し研究を進展させていける力を備えることができる（受講学生は指導教員と十分に相談し、研究アプローチ、手法や研究内容も決定させていく）。</p>						
授業概要	<p>研究計画に基づき、研究枠組みを検討し合い、研究目的の明確化をしていく。さまざまな研究方法について、内容の把握を行ないながら、研究計画で予定している方法が望ましいかどうか、再度検討を重ねる。研究テーマに沿いながら、関係領域の基本的な文献、また先行研究から学びながら研究テーマに関する内容の理解を深め、着眼点を掘り下げられるように議論していく。研究仮説の言語化とともに、大まかな研究スケジュールを考案できるように取り組むことができる。</p>						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性がかなめである。文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。</p>						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
<p>研究倫理に基づく責任ある研究活動について 研究計画内容の検討（1）計画概要について 研究計画内容の検討（2）テーマをめぐる問題 関係する文献からの検討（1）先行研究検索から 関係する文献からの検討（2）先行研究の概要 関係する文献からの検討（3）先行研究を基盤にした質疑応答 関係する文献からの検討（4）先行研究からの方法の検討 研究方法について（1）質的方法 研究方法について（2）量的方法 研究方法について（3）調査計画の検討 研究方法について（4）具体的調査方法の検討 報告・発表などの準備（1）研究概要の修正 報告・発表などの準備（2）要旨等の作成 調査内容、研究仮説の検討 研究スケジュール、調査準備作業 単位認定試験</p>						天岡 寛	

教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ (大学院授業)			担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12. つくる責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質が高い修士論文の作成に取り組む。修士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
授業概要	指導教授の指導のもとに、大学院において研究を進めるために必要な準備と方向づけを行う。各自の興味・関心・将来の希望などに基づいて、とりあえず研究領域を選択し、研究論文のテーマ(仮題でよい)を設定する。他の人と同じようなテーマではなく、できるだけユニークなものであることが望ましい。それについての基本的文献をよみはじめから、関連文献のリストを作成する。この関連文献のリストは、その後に行う研究の基礎となるのである。この科目は専修免許修得のための必須科目である(中学校社会と高校公民・地理歴史)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、試験(40%)、研究の進捗度(20%)によって総合的に評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。社会学研究演習1～IVは必須。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション・研究倫理の指導						姜	
2.各自選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告						姜	
3.各自選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告						姜	
4.資料の収集とまとめ方の指導						姜	
5.資料の収集とまとめ方の指導						姜	
6.資料の収集とまとめ方の指導						姜	
7.研究テーマに合わせた文献の紹介						姜	
8.研究テーマに合わせた文献の紹介						姜	
9.研究テーマに合わせた文献の紹介						姜	
10.文献発表と討論						姜	
11.文献発表と討論						姜	
12.研究テーマに合わせた文献の紹介						姜	
13.文献発表と討論						姜	
14.文献発表と討論						姜	
15.全体のまとめ						姜	
16.単位認定試験						姜	
教科書							
教・書籍名 1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。					教・出版社名 1	
教・著者名 1						教・ISBN 1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方	参・出版社名1	同文館
参・著者名1	新堀 聴	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマ：研究論文における研究テーマと準備作業について 到達目標：「研究論文の執筆に向けた準備作業」を進めるのはまず研究テーマを明確にするために話し合いながら一緒に決定していく。 研究論文における最初の準備時期だが、学生自身のテーマをはっきり自覚して決定するよう相談しておく。また、論文執筆に向けて研究倫理を指導するとともに、実際の論文執筆の作業や手順を確認しながら、議論や論理の正当性の検証、客観的な視点、あるいは反対意見への洞察なども伝えて確認しておくことが不可欠となる。 また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
授業概要	<p>学生は、まず自分の経験や思考、あるいはアイデアを、他者に向けて「なるほど」と思わせることが大切だと自覚しなければならない。どんなに面白い経験や思考、素晴らしいアイデアを持っていたとしても、それを簡潔に整理し伝えることができなければ意味をなさない。それを可能とする力は文章を読み、その要点を把握することが重要となる。そこで、学生の関心の幅を広げるために水準を高める作業が欠かせない。ここでは、文献資料の収集、実験観察や参与観察などの社会調査を必要とするかどうか、必要ならば現場へ出掛けるなども大切となる。論文執筆に向けた準備作業を学生と一緒に話し合いながら学生の研究テーマを絞ることをサポートする。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>学生の研究テーマがそれでいいかどうかを含めて考えさせることから、相談や報告、あるいは連絡をしっかりとしているかどうかが大変となる。評価のために課した小テスト等の予習や復習していることも評価の対象となる。これらを前提に講義への参加状況を40点、読書レポート（レジメ）および報告を60点として、これを総合的に評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジメなどは日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	<p>自分の研究テーマに即した議論をするためにどの学生も日本語で書かれた専門用語をマスターする。それには、まず予習・復習を徹底すること。また、留学生は日本語能力検定試験N1の取得で安心するのではなく、さらに日本語を勉強してレベルを高めること。いずれの学生も一般教養や時事問題を大切にすると同時に、自分の研究に向けた専門書を熟読し、その内容を整理しておくこと。これらを主体的に実施すること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、応答や質疑が可能なように、書籍や資料に目を通してノートに整理しておくこと。また、新聞やテレビのニュースを読んだり聞いたりしてまとめること。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>						
オフィスアワー	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
授業計画						担当者	
<p>〈1〉オリエンテーション(種々の相談と自己紹介、並びに研究倫理の指導)〈2〉研究テーマについて〈3〉研究テーマの書籍・資料の探索〈4〉資料の収集とその内容を発表〈5〉文献資料と先行研究の整理〈6〉現実の社会経済の眺め方〈7〉現実社会経済の観察の仕方〈8〉参与観察の必要性和重要生〈9〉自己の研究テーマの明確化〈10〉図式や表の作成〈11〉図式や表とプレゼンテーション〈12〉独自見解と研究との整合性〈13〉プレゼンテーションとは〈14〉修論構想(章立て)と準備発表〈15〉論文構想の発表と質疑応答〈16〉研究論文における調査の準備作業などの小論試験と、このような順に従い演習なので直接に話し合い、時には発表でプレゼンテーションも兼ねながら質の高い研究を目指して作一緒に業を進める。</p>						高橋	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	『研究者が知っておきたいアカデミックな世界の作法』	参・出版社名1	中央経済社
参・著者名1	谷本寛治	参・ISBN1	ISBN978-4-502-36681-9
参・書籍名2	『基プレジデント・学会発表・論文執筆のコツ、教えます』	参・出版社名2	日経BP社
参・著者名2	藤川達也	参・ISBN2	ISBN978-4-296-10902-9

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>『研究に於ける仮説検証』をテーマとし。調査（心理テストなども含めて）を計画・立案することができるようになる。さらに、調査票の作成や標本抽出に関して理解することができる。実際に調査を実施して、基本的な統計分析が行えるようになる。さらに、諸種の仮説検定について理解することができて、実際に仮説検定を用いて、検証を行うことができるようになる。</p> <p>これらの過程を通じて、調査研究の流れを理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>集団を対象にした研究や、スポーツの指導の効果性などについて研究する場合、調査研究（心理テストなども含めて）は広く用いられる方法である。従って、本演習では、調査の実際の基本を学修する。</p> <p>まず、調査研究の標本について理解する。そして調査研究の種類とその特徴について学ぶ。調査用紙の作成方法を理解したうえで、標本を設定して、調査用紙を作成し、実際に調査を実施する。</p> <p>そして、収集した標本データについて、記述統計による分析を行ったうえで、仮説検定を行う。この過程において、仮説の検証のための統計手法について、実際に学修する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	調査研究の基本に対する理解（20％）、調査対象の設定と調査票の作成（20％）、統計分析の理解と実施（20％）、研究レポートの作成（40％）にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業時に指導した内容に基づき、毎回回の授業時までには、調査を実施していくための立案や作成を行わなくてはならない。この行程を経ながら、調査を実際に実施していく。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読することを2時間、授業後にその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えることを2時間行う。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
授業計画						担当者	
①オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研	
②調査研究の概要						竹内研	
③縦断的調査と横断的調査						竹内研	
④振り返り調査と追跡調査						竹内研	
⑤コホート研究と介入研究						竹内研	
⑥母集団と標本集団						竹内研	
⑦調査票の作成						竹内研	
⑧SPSSの基本操作						竹内研	
⑨データのタイプと記述統計						竹内研	
⑩集団の分布						竹内研	
⑪集団特性値						竹内研	
⑫属性の検定						竹内研	
⑬平均値の差の検定						竹内研	
⑭分散分析						竹内研	
⑮調査レポートの作成						竹内研	
教科書							
教・書籍名1	SPSS超入門				教・出版社名1	東京図書	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習 exercises
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ：修士論文執筆のための調査研究  到達目標：研究課題と論文執筆の基本技法の確認。</p> <p>この授業では、それぞれの専攻分野において研究を進展させ、研究者として自立できる能力を獲得し、在学中に修士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、社会学研究演習1から社会学研究演習4に至るステップが設定されている。</p> <p>第1年次においては、研究の出発点として基礎的な理論と方法を学び、自らの研究関心や問題意識と照合して、研究課題を暫定的に作り上げる。その暫定的な研究課題に即して、関連文献・資料を収集・整理・分析して、研究課題を次第に精緻化していく。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることがのぞましい。</p>						
授業概要	<p>この授業におけるレポートの作成が受講生の論文執筆にとって有用なものであることを目指す。</p> <p>研究課題の設定、研究目的の精査、研究方法の選択肢など、論文執筆にとって実用的かつ基礎的な事項を確認しつつ、受講生各自のテーマでの論文執筆をサポートする。</p> <p>この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加状況（20%）、2回の中間レポート（40%）、最終試験（プレゼンテーションおよびレポート40%）によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究演習1から4は必修である。十分な予習・準備をして授業に臨み、復習によって授業内容を的確に理解すること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:30 Tuesdays (in classroom)						
授業計画						担当者	
1. 序：授業についての概要説明・研究倫理教育						Merviö	
2. 受講生の研究課題についての討論						Merviö	
3. 研究課題と研究目的の確認						Merviö	
4. 研究方法(1)：テキスト分析						Merviö	
5. 研究方法(2)：質的研究法						Merviö	
6. 研究アプローチの多様性						Merviö	
7. 研究方法についてのまとめ						Merviö	
8. 研究方法についての口頭発表						Merviö	
9. 研究方法についてのレジュメ作成						Merviö	
10. 方法学とは何か						Merviö	
11. 論文での理論枠組みの位置付け						Merviö	
12. 研究課題の設定と研究方法						Merviö	
13. 問題の所在と研究課題						Merviö	
14. 研究目的の書き方						Merviö	
15. 研究計画に向けて（総括討論）						Merviö	
16. 最終試験						Merviö	
教科書							
How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and						Createspace	

教・書籍名1	Researchers	教・出版社名1	Independent Publishing Platform
教・著者名1	Hamid, Mohamed E.	教・I S B N 1	978-1482675054
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	How to Write a Master's Thesis	参・出版社名1	Sage Inc.
参・著者名1	Bui, Yvonne N.	参・I S B N 1	978-1452203515
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	研究計画の検討と研究手法の学び－研究活動のための基礎的学びをテーマとする。受講生の掲げている計画内容について、目的を明確化するとともに、そのテーマをめぐる一般的な知識、実態や諸課題を整理することを到達目標とする。学生は、研究テーマに沿って、効果的な具体的研究方法を定め、分析を実施し研究を進展させていける力を備えることができる（受講生は指導教員と十分に相談し、研究アプローチ、手法や研究内容も決定させていく）。						
授業概要	研究計画に基づき、研究枠組みを検討し合い、研究目的の明確化をしていく。さまざまな研究方法について、内容の把握を行ないながら、研究計画で予定している方法が望ましいかどうか、再度検討を重ねる。研究テーマに沿いながら、関係領域の基本的な文献、また先行研究から学びながら研究テーマに関する内容の理解を深め、着眼点を掘り下げられるように議論していく。研究仮説の言語化とともに、大まかな研究スケジュールを考案できるように取り組む。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	どのような研究でも、受講生の研究への主体性がかなめである。文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	研究計画内容の検討（1）計画概要について					山口英峰	
第3回	研究計画内容の検討（2）テーマをめぐる問題					山口英峰	
第4回	関係する文献からの検討（1）先行研究検索と概要					山口英峰	
第5回	関係する文献からの検討（2）先行研究を基盤にした質疑応答					山口英峰	
第6回	関係する文献からの検討（3）先行研究からの方法の検討					山口英峰	
第7回	研究方法について（1）質的方法					山口英峰	
第8回	研究方法について（2）量的方法					山口英峰	
第9回	研究方法について（3）実験的手法					山口英峰	
第10回	研究方法について（4）研究方法の検討					山口英峰	
第11回	報告・発表などの準備（1）研究概要の修正					山口英峰	
第12回	報告・発表などの準備（2）要旨等の作成					山口英峰	
第13回	調査内容、研究仮説の検討					山口英峰	
第14回	研究スケジュール、調査準備作業					山口英峰	
第15回	まとめ					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅰ（大学院授業）			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>本研究演習のテーマは、「東アジア諸国の民主化政治とその社会的・経済的基盤」である。到達目標は、先進国型の民主主義体制と開発途上国型の権威主義体制の社会経済的な基盤を理解させるところにある。そして、歴史の視点と国際比較の視点を研究させる。この演習を受講すれば、日本と韓国の経験を中心に幅広く物事を捉える能力と、様々な方法論について理解することができる。</p> <p>なお、院生には関連文献を読みこませ、まとめる能力と問題点の発見力、そして問題解決力の向上を目指す。ちなみに、関連文献や資料については、う院生の関心事に対応する。研究方法論としては、歴史社会学的なアプローチに基づいた記述的実証分析となる。</p>						
授業概要	<p>指導教授および副指導教授の指導のもとに、大学院において研究を進めるために必要な準備と方向づけを行う。大学院生各自の興味・関心事・将来の希望などに基づいて、とりあえず研究領域を選択し、研究論文のテーマ（仮題で良い）を設定する。他の人と同じようなテーマではなく、できるだけユニークなものであることが望ましい。それについての基本的文献を読み始めながら、関連文献のリストを作成する。この関連文献のリストは、その後に行う研究の基盤となるものである。</p> <p>ちなみに、この演習を受講すれば、教員の専修免許（中学社会・高校公民・高校地理歴史）が取得可能になる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験（60％）、提出物（40％）によって評価する。提出物は、授業中にフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>(1) 演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>(1) 参加型演習であるために、事前課題を調べた上で参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。</p> <p>(2) 予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。</p>						
オフィスアワー	水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション（研究倫理教育）						1.李 分一	
2.指定資料・テキスト輪読						2.李 分一	
3.東アジアの政治（政治体制）						3.李 分一	
4.東アジアの貿易						4.李 分一	
5.東アジアの投資						5.李 分一	
6.東アジアの宗教						6.李 分一	
7.東アジアの価値観・生き方						7.李 分一	
8.指定資料・テキスト発表						8.李 分一	
9.指定資料・テキスト討論						9.李 分一	
10.日中韓の政治動向						10.李 分一	
11.日中韓の貿易動向						11.李 分一	
12.日中間の投資動向						12.李 分一	
13.日中韓の宗教						13.李 分一	
14.国際関係論の視点						14.李 分一	
15.国際比較論の視点						15.李 分一	
16.定期試験						16.李 分一	
教科書							

教・書籍名1	1週間前に文献および資料は示す。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	赤坂 真人		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ 社会学理論の基礎知識</p> <p>どのような学問であれ、理論のない研究はありえない。科学とはさまざまな事象の中に法則を見出し、それらの理論命題を体系化してゆく作業である。</p> <p>到達目標</p> <p>この講義では社会学研究において必要かつ不可欠な理論を学び、それらを応用できるようになることを目標とする。この科目は中学公民と高校地歴の専修免許を取得するための必修科目である。</p>						
授業概要	研究演習Ⅱでは院生の研究テーマの確定作業と、テーマの関連文献の精査、行動文献の決定を行い。毎回、購読文献の報告および内容についての院生と指導教員との討論で進めてゆく。討論の対象となる文献を指導教員も読むことは言うまでもない。もし教員の研究内容と重なる場合、共同研究の形で演習を運営することもある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	試験（100％）によって評価する。課題や小論文は採点して返却するので必ず復習すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課題を出すので、必ず仕上げてくゼミで報告する。また論文執筆のためのフィールドワークを課すことがあるが、データを整理して報告すること。教員はこれを詳細にチェックしてコメントする。						
履修条件・注意事項	研究の進捗状況によっては春休みも演習を続けることがある。						
事前学習・事後学習とその時間	学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室(9309)にて実施する。						
授業計画						担当者	
1..オリエンテーション：倫理教育（研究倫理に基づく責任ある研究活） 2.意味世界としての社会的世界 3.社会はいかにして可能か 4.社会秩序という問い 5.事実性と規範性 6.社会的世界の規範性 7.ミクローマクロ生成論と挫折 8.自生的秩序論 9.階級と権力の意味的秩序 10.社会システムは存在するか 11.理解社会学という方法 12.現象学という名の経験主義 13.計量テキスト分析実習Ⅰ 14.計量テキスト分析実習Ⅱ 15.研究報告書の書き方 16.定期試験						赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂	
教科書							
教・書籍名1	社会学とは何か			教・出版社名1	ミネルヴァ書房		
教・著者名1	盛山和夫			教・ISBN1	978-4623059461		
教・書籍名2	社会調査のための計量テキスト分析			教・出版社名2	ナカニシヤ出版		
教・著者名2	樋口 耕一			教・ISBN2	978-4779508035		
参考書							
参・書籍名1	教員が作成したハンドアウト・論文を配布する。			参・出版社名1	吉備国際大学		
参・著者名1	赤坂真人			参・ISBN1	なし		

参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：研究活動の調査や文献研究の実施－研究の進行方法の理解－ 到達目標：研究テーマに沿って、研究活動を具体的に進めていくことを目標とする。研究テーマに沿った研究方法を習得のため、各方法に応じた具体的な作業手順を学び、受講学生各自が自らの研究活動（調査や、フィールドワーク等）に臨む。文献研究を主としなくても、関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方、引用方法や各種資料の活用方法等について具体的に学び、その技術を身につけることを目標とする。春期に作成した研究計画をさらに練りながら、所定の発表会での要旨作成や口頭発表の経験を積み重ねることができる。						
授業概要	指導をもとに、研究テーマに沿って、テーマの周辺の知識を把握し、基礎的な入力を進めながら考察も展開していく。調査活動においては、その作業手順や守るべき調査の原則の理解を深め、実践的な取組を進めていきながら、研究の進め方を体得する。関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方を実際の文献や資料に実際にあたりながら指導を受け、検討を活発化させていく。研究の進展に応じて、各種文献や情報、資料等の引用方法、活用方法を学び取っていく。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢（調査手順の進め方）やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究テーマを探り、積極的に読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
研究テーマ周辺知識の整理と検討 文献・資料の検討（1）調査活動、考察に向けて 文献・資料の検討（2）論文形成の実践（引用等） 研究内容についての議論（1）基礎データの活用 研究内容についての議論（2）先行文献の活用 研究内容についての議論（3）論文の批評を通して 研究内容についての議論（4）先行研究と仮説 調査の実施（1）プレテスト及び、実施手順 調査の実施（2）実施における留意点 調査の実施（3）実施の課題点の検討 調査結果の分析（1）分析の実施 調査結果の分析（2）結果の概要 調査結果の分析（3）仮説と結果から 調査結果の分析（4）結果から研究計画スケジュールの再検討						天岡 寛	

まとめ			
単位認定試験			
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ (大学院授業)		担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年		ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう 					
到達目標	「修士論文の完成と論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い修士論文の作成に取り組む。修士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。					
授業概要	指導教授の指導のもとに、暫定的に設定された研究論文のテーマについての研究を着手する。関連文献のリストにしたがって、重要な文献を読み進めて、研究レビューを試み、論文の構成や焦点のあて方などについて考える。その成果を、ゼミで発表して、批判と指導を受ける。それに基づいて、研究論文の方向を改めて調整する。この科目は専修免許修得のための必須科目である(中学校社会と高校公民・地理歴史)。					
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション					
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、試験(40%)、研究の進捗度(20%)によって総合的に評価。					
ルーブリック評価						
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。					
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を数多く購読すると。1年次における社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)、2年次における社会学研究演習Ⅲ・Ⅳ(各2単位)の合計8単位は必須である。 大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。					
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。					
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。					
授業計画				担当者		
1.オリエンテーション・研究倫理の指導				姜		
2.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告				姜		
3.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告				姜		
4.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告				姜		
5.資料の収集とまとめ方の指導				姜		
6.資料の収集とまとめ方の指導				姜		
7.研究テーマに合わせた文献の紹介				姜		
8.研究テーマに合わせた文献の紹介				姜		
9.研究テーマに合わせた文献の紹介				姜		
10.文献発表と討論				姜		
11.文献発表と討論				姜		
12.研究テーマに合わせた文献の紹介				姜		
13.文献発表と討論				姜		
14.文献発表と討論				姜		
15.文献発表と討論				姜		
16.単位認定試験				姜		
教科書						
教・書籍名1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。			教・出版社名1		
教・著者名1				教・ISBN1		
教・書籍名2				教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方	参・出版社名1	同文館
参・著者名1	新堀 聡	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>テーマ：「研究テーマ」に基づく論文執筆までの準備作業</p> <p>到達目標：春期に続いて学生は、研究テーマの選択→ 修論執筆のスケジュール→ 文献資料収集(実験、実地調査、アンケート調査など)→ 先行研究の探察について、準備作業が継続的に実施できるよう話合って、学生は納得し自覚する。</p> <p>学生の関心に従った「研究テーマ」が決定することで、その後論文執筆に向けた作業や手順がはじめて具体的になる。それ故、具体的な研究論文執筆に向けた準備作業などは、学生主体で実施することが不可欠となる。</p> <p>また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
授業概要	<p>学生は独自の体験や面白い経験を持っているので、その中からすばらしいアイデアを見つけ出すことが必要である。ただ、この作業は時期を適宜に検討しながら慎重に図らなければならない。というのは、この作業は一般に学生が考えているより容易でないからである。学生は自分の関心や主張、あるいは問題意識に即してテーマを絞り込み、しかも論理的に論じる力を持つことができるように努力の積み重ねが不可欠だが、これはなかなか手強い作業である。そこで、ここではその作業を学生自身が主体的に行うよう話し合い、臨機応変なサポートが欠かせない演習となる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>学生の研究テーマがそれでいいかどうかを含めて考えさせることから、相談や報告、あるいは連絡をしっかりとしているかどうかが大切となる。評価のために課した小テスト等の予習や復習していることも評価の対象となる。これらを前提に講義への参加状況を40点、読書レポート（レジュメ）および報告を60点として、これを総合的に評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジュメなどは日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	<p>自分の研究テーマに即した議論をするためにどの学生も日本語で書かれた専門用語をマスターする。それには、まず予習・復習を徹底すること。また、留学生は日本語能力検定試験N1の取得で安心するのではなく、さらに日本語を勉強してレベルを高めること。いずれの学生も一般教養や時事問題を大切にすると同時に、自分の研究に向けた専門書を熟読し、その内容を整理しておくこと。これらを主体的に実施すること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、応答や質疑が可能なように、書籍や資料に目を通してノートに整理しておくこと。また、新聞やテレビのニュースを読んだり聞いたりしてまとめること。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>						
オフィスアワー	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
授業計画						担当者	
<p>〈1〉オリエンテーション(種々の相談とアドバイス) 〈2〉研究テーマの文献と資料の整理 〈3〉先行研究に関する内容の整理 〈4〉資料と先行研究の一覧作成 〈5〉先行研究の体系化 〈6〉論文のキー概念の整理 〈7〉図式的体系化 〈8〉先行研究との総合</p> <p>〈9〉先行研究の論点抽出 〈10〉図式や表の作成 〈11〉図式や表と文章化 〈12〉研究テーマの検討 〈13〉研究テーマの図式化 〈14〉修論構想の発表 〈15〉研究の調整 〈16〉これらの作業の進行状況の確認を含めて小論試験、と質の高い研究を目指して作業を進めるために確認を怠らないようにする。</p>						高橋	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	)『研究不正と歪んだ科学』	参・出版社名1	日本評論社
参・著者名1	榎木英介	参・ISBN1	ISBN978-4-535-78767-4
参・書籍名2	『ビジネスリサーチーはじめての経営学ー』	参・出版社名2	東洋経済新報社
参・著者名2	佐藤郁哉	参・ISBN2	ISBN978-4-492-50328-7

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	『スポーツ・健康などの領域』をテーマとし、社会現象や集団現象に関する調査研究ではしばしば、対象集団の状況や、対象集団への働きかけの結果について検証する際、ある事象が生起する原因や因果関係について探求することが必要とされる。当然、客観性と普遍性を求めるために、統計的な手法が広く用いられる。記述的な統計手法による結果からでは見出すことができない、要因や関係などを明らかにするための統計的な方法について理解することを到達目標とする。						
授業概要	調査対象の標本から収集したデータの関連性を測り、そのうえでデータ間の関係を関数として記述し、それをもとに結果の予測を行う。さらに、多くの社会現象や集団に現れる現象は大半そうであるが、複雑な多要因間の関係性を有する。こうした分析が可能で、多変量解析学修する。因果関係の分析のみならず、標本データの背後にある要因の分析方法、分類のための分析方法、カテゴリカルデータの変量解析、などを実際にデータを分析しながら、学修学習する。 また、因果関係を検証するための、ケースコントロール研究について理解して、実際の調査レポートを作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	回帰性の分析について（20％）、多変量解析に関する理解（40％）、ケースコントロール研究に対する理解（20％）、調査レポートの作成（20％）にて評価する。 評価のために実施したレポート等は、授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎時の授業時において指導された内容に基づき、サンプルデータに関して、指示された分析を行い、その結果を提出する。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を2時間、授業後にその論文の概要を資料としてまとめ自己の考察を加えることを2時間を行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
授業計画						担当者	
①オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研	
②因果関係						竹内研	
③ケースコントロール研究						竹内研	
④相関分析						竹内研	
⑤回帰分析						竹内研	
⑥多変量解析の概要						竹内研	
⑦重相関係数						竹内研	
⑧重回帰分析						竹内研	
⑨因子分析						竹内研	
⑩主成分分析						竹内研	
⑪クラスター分析						竹内研	
⑫判別分析						竹内研	
⑬多次元尺度法						竹内研	
⑭数量化						竹内研	
⑮調査レポートの作成						竹内研	
教科書							

教・書籍名1	SPSSで学ぶ医療系データ解析	教・出版社名1	東京図書
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ：修士論文の研究課題・テーマの精査          到達目標：修士論文の研究計画の作成。</p> <p>それぞれのテーマにおいて研究を進展させ、修士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、社会学研究演習1から4に至るステップが設定されている。研究課題について、関連文献・資料を収集・整理・分析して、研究課題を次第に精緻化していく。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも努力する。</p>						
授業概要	<p>研究計画のデザインと作成に取り組む。</p> <p>この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業参加の積極性（20％）、中間レポート（40％）、最終試験（40％）によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究演習1から4は必修である。事前の準備・予習をふまえて授業に参加し、事後の復習によって理解を徹底すること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:30 Tuesdays (classroom).						
授業計画						担当者	
1. 概要説明・研究倫理教育						Merviö	
2. 研究計画について						Merviö	
3. 研究計画の書き方						Merviö	
4. 研究計画の骨子						Merviö	
5. 研究計画の作成						Merviö	
6. 研究計画案への助言						Merviö	
7. 中間発表（中間レポート）						Merviö	
8. 研究計画についての討論						Merviö	
9. 研究計画と全体の構成						Merviö	
10. 研究デザインと実際						Merviö	
11. 研究計画の推敲：課題の明確化						Merviö	
12. 研究計画の完成						Merviö	
13. 研究計画の口頭説明						Merviö	
14. 研究プレゼンテーション準備						Merviö	
15. 全体総括						Merviö	
16. 最終試験						Merviö	
教科書							
教・書籍名1	How to Write a Master's Thesis			教・出版社名1	Sage Inc.		
教・著者名1	Bui, Yvonne N.			教・I S B N 1	978-1452203515		
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・I S B N 2			
参考書							
	How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and				Createspace		

参・書籍名1	Researchers	参・出版社名1	Independent Publishing Platform
参・著者名1	Hamid, Mohamed E.	参・I S B N 1	978-1482675054
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>研究活動の調査や文献研究の実施（研究の進行方法の理解）をテーマとする。研究テーマに沿って、研究活動を具体的に進めていくことを到達目標とする。研究テーマに沿った研究手法を習得のため、各方法に応じた具体的な作業手順を学び、受講生各自が自らの研究活動（実験、調査やフィールドワーク等）に臨む。学生は、文献研究を主としなくても、関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方、引用方法及び各種資料の活用方法等について具体的に学び、その技術を身につけることができる。春期に作成した研究計画をさらに練りながら、所定の発表会での要旨作成や口頭発表の経験を積み重ねていく。</p>						
授業概要	<p>指導をもとに、研究テーマに沿って、テーマの周辺の知識を把握し、基礎的な入力を進めながら考察も展開していく。調査活動においては、その作業手順や守るべき調査の原則の理解を深め、実践的な取組を進めていきながら、研究の進め方を体得する。実験においては、機材の使い方を理解し、実際に活用出来る能力を身につける。関連文献や統計資料の収集方法、文献の読み込み方を実際の文献や資料に実際にあたりながら指導を受け、検討を活発化させていく。研究の進展に応じて、各種文献や情報、資料等の引用方法、活用方法を学び取っていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>どのような研究でも、受講生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢（調査手順の進め方）やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにもするものでもない。自らが探求的に研究テーマを探り、積極的に読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究テーマ周辺知識の整理と検討					山口英峰	
第2回	文献・資料の検討（1）調査活動、考察に向けて					山口英峰	
第3回	文献・資料の検討（2）論文形成の実践（引用等）					山口英峰	
第4回	研究内容についての議論（1）基礎データの活用					山口英峰	
第5回	研究内容についての議論（2）先行文献の活用					山口英峰	
第6回	研究内容についての議論（3）論文の批評を通して					山口英峰	
第7回	研究内容についての議論（4）先行研究と仮説					山口英峰	
第8回	調査の実施（1）プレテスト及び、実施手順					山口英峰	
第9回	調査の実施（2）実施における留意点					山口英峰	
第10回	調査の実施（3）実施の課題点の検討					山口英峰	
第11回	調査結果の分析（1）分析の実施					山口英峰	
第12回	調査結果の分析（2）結果の概要					山口英峰	
第13回	調査結果の分析（3）仮説と結果から					山口英峰	
第14回	調査結果の分析（4）結果から研究計画スケジュールの再検討					山口英峰	
第15回	まとめ					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	研究テーマに応じてプリントを配布する					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	研究テーマに応じて指示する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅱ（大学院授業）			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士1年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>本研究の演習は、「東アジアの中の日本」というテーマの中で、グローバルとリージョナル、そしてナショナルな視点に立った総合的な研究を行う。</p> <p>この演習の到達目標は、日本と東アジアの過去と現在、そして将来の姿を総合的に理解させるところにある。今後の日本は、グローバル化とリージョナル化の狭間で、どれだけの範囲で、どの程度までに東アジアにかかわってゆくのかわかるのか。こうした問題意識下で、近年における日本と東アジアの関わりを様々な領域や分野からアプローチして行く。</p> <p>なお、院生の学位論文（「修士」）についても、きめ細かく指導しつつ、完成を目指すことになる。</p>						
授業概要	<p>指導教授および副指導教授の指導のもとに、学位論文（「修士」）の作成を進める上で必要な指導を行う。各自の研究領域を確実に選択し、論文テーマを設定する。それについての専門的な文献を読みこなし、論文作成を始める。こうした一連の作業目標は、学位論文の完成にある。</p> <p>ちなみに、この演習を受講すれば、教員の専修免許（中学社会・高校公民・高校地理歴史）が取得可能になる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	口頭試験（60％）とレポート（40％）によって評価する。 レポートは授業中にフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>(1) 各自のテーマに真面目に、丁寧に、しっかり取り込んでいくこと。</p> <p>(2) 演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(3) 口頭試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>(1) 参加型演習であるために、演習参加者は事前課題を調べる必要がある。</p> <p>(2) 予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを提出しなければならない。</p>						
オフィスアワー	水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション（研究倫理教育）						1.李 分一	
2.グローバル化と東アジア						2.李 分一	
3.グローバル化の理想と現実						3.李 分一	
4.東アジア地域論						4.李 分一	
5.東アジアと日本						5.李 分一	
6.東アジアの共生論						6.李 分一	
7.東アジアの投資と貿易						7.李 分一	
8.東アジアの歴史的対話						8.李 分一	
9.グローバリゼーションと中国外交						9.李 分一	
10.グローバリゼーションと日本外交						10.李 分一	
11.グローバリゼーションと韓国外交						11.李 分一	
12.グローバリゼーションとASEAN						12.李 分一	
13.日中関係論						13.李 分一	
14.日韓関係論						14.李 分一	
15.中韓関係論						15.李 分一	

教科書			
教・書籍名1	1週間前に文献および資料は示す。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	



参・書籍名1	社会調査のための計量テキスト分析	参・出版社名1	ナカニシヤ出版
参・著者名1	樋口 紘一	参・ISBN1	978-4779508035
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ (大学院授業)			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：研究調査の分析と整理－研究成果の整理－ 到達目標：研究の枠組みや仮説に則って進めてきた調査や文献研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の受講学生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけることができる。</p>						
授業概要	<p>研究が主として調査による場合は、その結果の検討から論文に反映できる内容の整理をし、また必要に応じて追跡調査の内容や実施を明確化していく。調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。実際には、調査の結果データをグラフや表の形態にまとめたり、文献からの検討や引用を自分なりの考察と絡めながら、言語化させて明記していく。この研究の取組の中で、関連するテーマは当然ながら、他の受講学生の研究にも関心を高め、論文作成のためのロジックの整合性の習得のため、発表や質疑応答の経験を積んでいく。</p>						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢（調査手順の進め方）やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要な資料を探し、熟読してくる。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。</p>						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
<p>研究倫理に基づく責任ある研究活動について 調査結果分析から追跡調査等の検討 研究計画内容、仮説の再検討 関係する文献からの検討（1）調査結果と先行研究 関係する文献からの検討（2）引用表現の工夫 関係する文献からの検討（3）論点の議論 関係する文献からの検討（4）引用文献の挿入 調査結果の活用 データ処理方法について（1）質的研究 データ処理方法について（2）量的研究 報告・発表の準備（1）パワーポイントの作成方法 報告・発表の準備（2）論文構成の課題 報告・発表の準備（3）要旨のまとめ方 仮説と問いの組み方（1） 考察と結論の検討</p>						天岡 寛	

単位認定試験			
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ (大学院授業)			担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「修士論文の完成と論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、質の高い修士論文の作成に取り組む。修士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
授業概要	指導教授の指導のもとに、研究論文のテーマについての研究を進める。関連文献・統計資料などの集め方、読み方、まとめ方、とくに他の論文からの引用の仕方については、具体的に指導を受ける。その成果を大学院社会学研究科修士論文中間発表会(2年次生)において発表する。この科目は専修免許修得のための必須科目である(中学校社会と高校公民・地理歴史)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、研究の進捗度・試験(60%)によって総合的に評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を数多く購読すること。大学院は少人数の授業であるので、常に問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、授業の理解度を高めるために復習すること。指導教授とよく連絡をとること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。1年次における社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)、2年次における社会学研究演習Ⅲ・Ⅳ(各2単位)の合計8単位は必須である。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
授業計画						担当者	
1.リエンション・研究倫理の指導						姜	
2.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告						姜	
3.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告						姜	
4.各自の選んだ研究テーマに合わせた研究文献の報告						姜	
5.資料の収集とまとめ方の指導						姜	
6.資料の収集とまとめ方の指導						姜	
7.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告						姜	
8.文献の発表と討論						姜	
9.文献の発表と討論						姜	
10.文献の発表と討論						姜	
11.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告						姜	
12.研究テーマに合わせた文献の紹介と報告						姜	
13.文献の発表と討論						姜	
14.文献の発表と討論						姜	
15.文献の発表と討論						姜	
16.単位認定試験						姜	
教科書							
教・書籍名1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		

参考書			
参・書籍名1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方	参・出版社名1	同文館
参・著者名1	新堀 聡	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ (大学院授業)			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>テーマ：研究論文に向けた社会調査と分析に関して</p> <p>到達目標：論文執筆における研究倫理、実験観察や実地調査、あるいはアンケート調査が必要な場合、まず資料やデータを整理し分析する力を身に付ける。次に、先行研究に照らし合わせて解釈力や評価力を高めることを目指す。これには学生の「研究テーマ」の確認と同時に文献資料の収集(実験、実地調査、アンケート調査など)→先行研究の調査→独創的考えの吟味を通して、本格的な準備作業を話し合いながら学生と一緒に進める。</p> <p>また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
授業概要	<p>学生は自分の経験や思考、あるいはアイデアから選んだ研究テーマを、他者に向けて「なるほど」ないし「さすが」と思わせる文章に書き上げなければならない。それには、論文の内容を簡潔で論理的にまとめる必要がある。この時、研究テーマを一つのテーマに絞り込みつつ論点が脱線しないように論じなければならない。そこで、ここでは文献資料だけでよいのか、実験観察や実地調査が必要なのか、アンケート調査を実施するのか、あるいは先行研究にはどんな内容の議論を展開しているのかなど、こうした準備作業を研究倫理に反しないで、自己の研究を吟味しながら学生と一緒に論文の構成を明らかにする。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / プレゼンテーション / フィールドワーク / その他のアクティブラーニング (複合的なもの等)						
評価方法と割合	演習での意見や態度に10点、読書レポート (レジュメ)、調査の準備作業とそれに関する小論および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジュメなどは日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	<p>自分の研究テーマに即した議論をするためにどの学生も日本語で書かれた専門用語をマスターする。それには、まず予習・復習を徹底すること。また、留学生は日本語能力検定試験N1の取得で安心するのではなく、さらに日本語を勉強してレベルを高めること。いずれの学生も一般教養や時事問題を大切にすると同時に、自分の研究に向けた専門書を熟読し、その内容を整理しておくこと。これらを主体的に実施すること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、応答や質疑が可能なように、書籍や資料に目を通してノートに整理しておくこと。また、新聞やテレビのニュースを読んだり聞いたりしてまとめること。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。</p>						
オフィスアワー	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
授業計画						担当者	
<p>〈1〉オリエンテーション(研究倫理の確認、反省と今後) 〈2〉研究テーマの文献と内容整理 〈3〉先行研究の探索 〈4〉研究テーマの文献資料と一覧 〈5〉研究テーマと先行研究とを发表 〈6〉キー概念の再整理 〈7〉キー概念の図式的な体系化 〈8〉研究論文の目次と論理的な展開 〈9〉研究論文構想に向けた準備発表 〈10〉研究論文に向けた図式や表の作成 〈11〉研究論文の論理展開の整理 〈12〉研究論文に向けた論文の書き方 〈13〉研究論文構想に則した文章化 〈14〉章立ての発表と質疑応答 〈15〉質問と調整最 〈16〉研究論文における調査の準備作業、このような順に従い演習なので直接に話し合い、時に発表などでプレゼンテーションも兼ねながら質の高い研究論文の完成を目指して作業を進める。</p>						高橋	
教科書							
教・書籍名1					教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	『わかりやすい統計学 -データサイエンスの基礎-』	参・出版社名1	丸善出版
参・著者名1	松原望・松本栄一	参・ISBN1	ISBN978-4-621-30653-6
参・書籍名2	『はじめてでもできる社会調査 -アンケート調査とデータ解析-』	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	安藤明之	参・ISBN2	ISBN978-4-535-58632-1

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ（大学院授業）			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>『人間の思考・感情・行為、及び人間関係や対人行動』などをテーマとし、脳科学や認知科学などの学問分野の著しい進歩によって、その理論は大きく変化しつつある。これを基盤として、自身の行動変容や、他者への働きかけ（教育や指導など）の方法論は、新たに開発・展開を見せている。</p> <p>これまでの教育システムや指導ノウハウのパラダイムは、大いなる転換の時期にさしかかっている。</p> <p>解明されてきた人間の脳機能について、新しい理解を持つことができるようになる。そして、自分自身への働きかけ、さらに他者への働きかけの、具体的なメソッドを習得することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>これまで、スポーツの領域ではメンタルトレーニングなどと称され、さらにはスポーツ領域を超えて、社会における諸種の領域にまでその応用が拡大してきた、教育プログラムの数々は、その理論的基盤は、行動主義などの既存の心理学的パラダイムである。ここに、脳科学や認知科学などの成果を導入した、新たなパラダイムを理解する。その理論枠組みごとに、実際に見られる人間の行動様式や、社会現象などを取り上げて、それらの説明を試みる。さらに、自己変革および他者変革の実際の働きかけの技術を習得する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	理論枠組みの理解50%、働きかけの技術の取得50%、にて評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎時の授業において、文献が提示される。その文献を抄読してくる。さらに、働きかけの技術に関しては、授業後実践し、その報告を提出する。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読すること。 授業時にその内容について報告し、授業後はその論文の概要を資料としてまとめること。 必ず予習復習を、それぞれ約2時間ずつ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室（6330）にて						
授業計画						担当者	
①オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研	
②RASとスコトマ						竹内研	
③情動記憶						竹内研	
④自己イメージと過小評価						竹内研	
⑤コンフォートゾーン						竹内研	
⑥パフォーマンスとコンフォートゾーン						竹内研	
⑦情報空間の恒常性維持機能とセルフレギュレーション						竹内研	
⑧セルフトーク						竹内研	
⑨自己イメージとセルフトークコントロール						竹内研	
⑩セルフエフィカシー						竹内研	
⑪ゴールの設定						竹内研	
⑫創造的無意識						竹内研	
⑬ゴールのリアリティ						竹内研	
⑭ビジュアライゼーションとアフメーション						竹内研	
⑮アフメーションの実際						竹内研	
教科書							
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方				教・出版社名1	フォレスト出版	

教・著者名1	苔米地英人	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ (大学院授業)			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習 exercises
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ：修士論文完成のための調査研究</p> <p>到達目標：それぞれのテーマで研究を進展させ、研究者として自立できる能力を修得する。</p> <p>在学中に修士論文を完成させることをめざし、指導教授を中心にして、社会学研究演習1から4に至るステップが設定されている。</p> <p>第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析して、必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを行う。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、社会調査の企画とデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導をうける。研究課題が絞られていく過程において、場合によっては、研究の方向性を修正する必要も生じることがある。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。</p>						
授業概要	1年次で完成させた研究計画をもとに、先行研究の批判的読解を深める。 この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加状況 (20%) , 2回の間中間レポート(40%) , 最終試験 (プレゼンテーションおよびレポート 40%) によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究演習1から社会学研究4は必修である。予習・準備を確実にしてから授業に参加し、授業後の復習によって理解を徹底させること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:30 Tuesdays (in classroom)						
授業計画						担当者	
1. 授業の概要説明・研究倫理教育						Merviö	
2. 先行研究とは						Merviö	
3. 先行研究の検索						Merviö	
4. 先行研究の読解						Merviö	
5. 先行研究への批判的視座						Merviö	
6. 先行研究についての論考						Merviö	
7. 中間まとめ						Merviö	
8. 研究情報の収集						Merviö	
9. 研究情報の検索						Merviö	
10. 研究情報のファイリング						Merviö	
11. 資料の読解						Merviö	
12. 資料の解釈						Merviö	
13. 資料の比較検討						Merviö	
14. 資料に基く考察						Merviö	
15. 総括討論						Merviö	
16. 最終試験						Merviö	
教科書							
教・書籍名1	How to Write a Master's Thesis				教・出版社名1	Sage Inc.	
教・著者名1	Bui, Yvonne N.				教・ISBN1	978-1452203515	
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	How to Write a Research Proposal and Thesis	参・出版社名1	Createspage Independent Publishing Platform
参・著者名1	Hamid, Mohamed E.	参・ISBN1	978-1482675054
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ (大学院授業)			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年 / 2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>研究論文の完成にむけた研究成果を精査することをテーマとする。研究の枠組みや仮説に則って進めてきた、実験データ、調査活動や文献研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を到達目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。学生は、その他の受講生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけることができる。</p>						
授業概要	<p>研究が主として調査による場合は、その結果の検討から論文に反映できる内容の整理をし、また必要に応じて追跡調査の内容や実施を明確化していく。調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。実際には、調査の結果データをグラフや表の形態にまとめたり、文献からの検討や引用を自分なりの考察と絡めながら、言語化させて明記していく。この研究の取組の中で、関連するテーマは当然ながら、他の受講生の研究にも関心を高め、論文作成のためのロジックの整合性の習得のため、発表や質疑応答の経験を積んでいく。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / プレゼンテーション / その他のアクティブラーニング (複合的なもの等)						
評価方法と割合	<p>どのような研究でも、受講生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢 (調査手順の進め方) やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢 (30%)、質疑応答における発言状況 (30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容 (40%) から、総合的に評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。</p>						
履修条件・注意事項	<p>研究は他の誰のためにもするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。</p>						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9410研究室) において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	実験・調査結果分析から追跡実験・調査等の検討					山口英峰	
第3回	研究計画内容、仮説の再検討					山口英峰	
第4回	関係する文献からの検討 (1) 研究結果と先行研究					山口英峰	
第5回	関係する文献からの検討 (2) 引用表現の工夫					山口英峰	
第6回	関係する文献からの検討 (3) 論点の議論					山口英峰	
第7回	実験結果、調査結果の活用					山口英峰	
第8回	データ処理方法について (1) 質的研究					山口英峰	
第9回	データ処理方法について (2) 量的研究					山口英峰	
第10回	報告・発表の準備 (1) パワーポイントの作成方法					山口英峰	
第11回	報告・発表の準備 (2) 論文構成の課題					山口英峰	
第12回	報告・発表の準備 (3) 要旨のまとめ方					山口英峰	
第13回	仮説と問いの組み方 (1)					山口英峰	
第14回	考察と結論の検討					山口英峰	
第15回	まとめ					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅲ (大学院授業)			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>本研究の演習は、「東アジアの中の日本」というテーマの中で、グローバルとリージョナル、そしてナショナルな視点に立った総合的な研究を行う。</p> <p>この演習の到達目標は、日本と東アジアの過去と現在、そして将来の姿を総合的に理解させるところにある。今後の日本は、グローバル化とリージョナル化の狭間で、どれだけの範囲で、どの程度までに東アジアにかかわってゆくのか。こうした問題意識の下で、近年における日本と東アジアの関わりを様々な領域や分野からアプローチして行く。</p> <p>なお、院生の学位論文（「修士」）についても、きめ細かく指導しつつ、完成を目指すことになる。</p>						
授業概要	<p>指導教授および副指導教授の指導のもとに、学位論文（「修士」）の作成を進める上で必要な指導を行う。各自の研究領域を確実に確保し、論文テーマを設定する。それについての専門的な文献を読みこなし、論文作成を始める。こうした一連の作業目標は、学位論文の完成にある。</p> <p>ちなみに、この演習を受講すれば、教員の専修免許（中学社会・高校公民・高校地理歴史）が取得可能になる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定義試験（60％）とレポート（40％）によって評価する。レポートは授業中にフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>(1) 各自のテーマに真面目に、丁寧に、しっかり取り込んでいくこと。</p> <p>(2) 演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(3) 口頭試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>(1) 参加型演習であるために、事前課題を調べた上で参加すべきである。</p> <p>(2) 予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。</p>						
オフィスアワー	水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション（研究倫理教育）						1.李 分一	
2.グローバル化とアジアの現実						2.李 分一	
3.現代のグローバリゼーション						3.李 分一	
4.世界化とアジアの地域化						4.李 分一	
5.世界化と国際関係の変容						5.李 分一	
6.世界化の中の東アジア						6.李 分一	
7.東アジア安全保障共同体						7.李 分一	
8.東アジアの投資論						8.李 分一	
9.東アジアの貿易論						9.李 分一	
10.東アジアの階層化						10.李 分一	
11.世界化と日本						11.李 分一	
12.世界化と中国						12.李 分一	
13.世界化と韓国						13.李 分一	
14.世界化とASEAN						14.李 分一	
15.まとめ						15.李 分一	
16.定期試験						16.李 分一	
教科書							
教・書籍名 1	1週間前に文献および資料は示す。					教・出版社名 1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	



参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：研究論文の完成と研究課題の総括－研究成果と課題－ 到達目標：研究方法のルールに従い、論文をまとめあげることを通して、研究のオリジナリティと実証的な成果を明示することを目標とする。論文作成にあたっては、各研究方法に基づく十分な検討を実施し、結論づけていく能力を向上させることが目標である。また、どのような研究も、探求においては困難さや課題点が伴うため、その研究の限界や、残された課題点についても議論を重ね、今後の研究活動の見通しを立てることができる。						
授業概要	受講学生の研究テーマに沿いながら、研究方法を検討し、その手法を学んでいく。また、研究テーマに即した領域の文献、先行研究の内容を理解しながら、着眼点を掘り下げ、議論していく。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	どのような研究でも、受講学生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢（調査手順の進め方）やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要な資料を探し、熟読してくること。また、研究テーマにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
研究結果の検討と論文作成（1）目的・方法・仮説 研究結果の検討と論文作成（2）結果・結論 研究結果の検討と論文作成（3）全体の流れ 論文内容の考察に関する質疑応答（1）考察のための論述 論文内容の考察に関する質疑応答（2）考察からのオリジナリティの検討 論文内容の考察に関する質疑応答（3）研究の限界と課題点 論文の記述内容の修正と質疑応答（1）論文内容の修正 論文の記述内容の修正と質疑応答（2）引用、注記の修正 論文の記述内容の修正と質疑応答（3）データ類の表記の修正 報告・発表などの準備（1）要旨作成 報告・発表などの準備（2）パワーポイントの作成 報告・発表などの準備（3）プレ発表 報告・発表などの準備（4）ポイントの検討 研究全体の内容の見直し・修正（1）質疑応答内容の活用 研究全体の内容の見直し・修正（2）誤字等文章全体の修正 単位認定試験						天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	姜 明求		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「修士論文の完成」がテーマである。到達目標は、質の高い修士論文の作成に取り組む。修士論文の研究を行うために必要な文献、資料の収集、先行研究の精査・分析の方法、文章のまとめ方、発表のノウハウ、論理的思考力、コミュニケーション能力などの養成を目標にする。						
授業概要	指導教授の指導のもとに、これまでの研究成果を、修士論文としてまとめる。論文の構成、論文のまとめ方、文章の書き方、文献の引用の仕方などについて、具体的に指導を受ける。提出される論文の形式については、「修士学位論文作成要領」（『大学院要覧』所収）にしたがうことになっている。提出された論文は、2月上旬に実施される大学院社会学研究科修士論文審査会において審査を受ける。この科目は専修免許修得のための必須科目である(中学校社会と高校公民・地理歴史)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション、発表内容と討論への姿勢など(40%)、修士論文の完成と試験(60%)によって総合的に評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	大学院は少人数の授業であるので、問題意識を持つと共に、しっかり予習をし、出席して積極的な姿勢で討論に参加すること。また、復習をすること。メール、携帯電話、私語、無断退室、無断欠席は厳禁。1年次における社会学研究演習Ⅰ・Ⅱ(各2単位)、2年次における社会学研究演習Ⅲ・Ⅳ(各2単位)の合計8単位は必須である。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために予習の徹底(毎回2時間)と講義後に復習(毎回2時間)をすること。						
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。						
授業計画						担当者	
1.オリエンテーション・研究倫理の指導						姜	
2.各自の選んだ研究テーマについての順次報告(各人)						姜	
3.各自の選んだ研究テーマについての順次報告(各人)						姜	
4.各自の選んだ研究テーマについての順次報告(各人)						姜	
5.各自の選んだ研究テーマについての順次報告(各人)						姜	
6.テーマと目次の決定(各人)						姜	
7.論文執筆の中間発表(各人)						姜	
8.論文執筆の中間発表(各人)						姜	
9.論文の中間確認と内容の指導						姜	
10.論文の中間確認と内容の指導						姜	
11.論文の中間確認と内容の指						姜	
12.論文の中間確認と内容の指導						姜	
13.論文の最終確認と編集(各人)						姜	
14.修士論文の完成と成果発表・校正(各人)						姜	
15.修士論文の完成と成果発表・校正(各人)						姜	
16.試験						姜	
教科書							
教・書籍名1	研究テーマに応じて、予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方	参・出版社名1	同文館
参・著者名1	新堀 聡	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／12. つくる責任・つかう責任／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマ：より質の高い研究論文に向けた資料整理のやり方 到達目標：研究論文の執筆に向けて図式化・図解化などを含めて、これらに修正を加えながらレベルアップを図り、レジメを作成しながら整理し、プレゼンテーションにおいても研究倫理を遵守しつつ、論理的な文章を展開することが目標となる。 また、この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。</p>						
授業概要	<p>研究論文は、自分の研究テーマに沿った内容を簡潔で論理的にまとめなければならない。そこで問題意識にあわせてテーマに沿って論理的な展開をした文章が必要である。ただ、論文の最終段階であっても研究倫理が厳守・保持されているかを確認する必要がある。この意味で、研究論文は一般的に、研究倫理に従って、①研究の動機(問題意識)や意義・重要性、②テーマに関する先行研究や歴史、③分析(仮説を立て検証するステップの連鎖、時間の進行や地域・領域などによる推敲)、④結論、⑤参考文献・注釈から、順に構成されなければならない。また、文章で関心を明確化するの「～と思われる」「～であろう」の推測を含んだ表現を多用しない。そして、主張の根拠を明確に示すこと。接続詞や修辞表現も多用しないこと。これらを徐々に身に付けながら実際に文章化を一緒に話し合いながら研究倫理の確認し演習を進める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	演習での意見や態度に10点、読書レポート（レジメ）、小論および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジメなどは日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	演習受講する学生と相談の上、利用の文献を決定する。この文献の他、参考文献をとり上げてあるので、それらを読んで整理しレポート(レジメ)を作成し、講義内で報告し仲間と議論する。専門書や資料などの整理や内容の吟味を含めて話し合うこと。また、受講する学生たちと相談の上、研究発表を兼ねることもあるが、これには主体的に参加のこと。						
事前学習・事後学習とその時間	前もって講読する書籍や資料を、学生と相談の上で決定するので、質疑や応答が可能であるように、書籍や資料に目を通しノートに整理しておくこと。また、新聞を読んだりテレビのニュースを聞いたりし、それをまとめておくこと。講義の資料を参考に予習2時間と講義終了後には復習2時間をやること。						
オフィスアワー	火曜日 昼休みと4時限目(1258研究室)						
授業計画						担当者	
<p>〈1〉オリエンテーション(反省と今後) 〈2〉研究テーマの文献と内容整理 〈3〉先行研究の探索 〈4〉研究テーマの文献資料と一覧 〈5〉研究テーマと先行研究とを公表 〈6〉キー概念の再整理 〈7〉キー概念の図式的な体系化 〈8〉研究論文の目次と論理的な展開 〈9〉研究論文構想に向けた準備発表 〈10〉研究論文に向けた図式や表の作成 〈11〉研究論文の論理展開の整理 〈12〉研究論文に向けた論文の書き方 〈13〉研究論文構想に則した文章化 〈14〉章立ての発表と質疑応答 〈15〉質問と調整 〈16〉研究論文の準備発表と質疑応答のような順に従って、演習なので直接に話し合い、時に発表などでプレゼンテーションも兼ねながら質の高い研究論文の完成を目指して、研究倫理を厳守してもらいながら書き進める。</p>						高橋	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	『質の高い研究論文の書き方』	参・出版社名1	白桃書房
参・著者名1	佐藤郁哉	参・ISBN1	ISBN978-4-561-26747-8
参・書籍名2	『実践！問題法』	参・出版社名2	小学館
参・著者名2	大前研一・齋藤顯一	参・ISBN2	ISBN978-4-09-389607-0

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「個人はもとより、集団や社会における行為』をテーマとし、その結果としての現象それらのインフラとして身体を位置づけ意味づけし、身体のありかたから、個人・集団・社会を読み解くことができるようになる。従来の身体資源を生物学的に捉えるのみならず、身体の構造・機能の有様をより詳細に解明しつつ、そこに人間存在の特性といえる意識の働きを付加して、理解できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	これまでの身体について考察を行う際には、生物学的な視点が主であった。具体レベルでは、この視点によって、個々の身体の機能・状態の把握は進んできた。しかし、主体としての人間の身体を高次に捉え、なおかつ個々の人間間に始まり、集団から社会に至る関係との連環において、身体を意味づけるにおいては、身体論の視点を要する。本演習では、これまでの身体の持つ意味や機能について、事例や実際の現象を題材に、理解を深めることができる。さらに、以上を止揚する身体に関する体系的な理論を、実際の動きの解説と共に、把握できるようになる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	厳密科学的な身体論の理解（30％）、人間学的な身体論の理解（30％）、運動科学的身体論の理解（40％）で評価。 評価のために課したレポート等は、授業時にフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	各回の授業で提示する文献を講読して、次の授業時に内容について発表する。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業に際して、事前に関連の論文を検索し抄読することを2時間、授業後にその論文を資料としてまとめ自己の考察を加えること2時間を行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室(6330)にて						
授業計画						担当者	
①オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研	
②身体の捉え方の歴史的概説						竹内研	
③東洋的身体論に関する文献抄読						竹内研	
④東洋的身体論の実例を検証						竹内研	
⑤現代における東洋的身体論の価値						竹内研	
⑥心身二元論の概説						竹内研	
⑦自然科学的身体分析に関する文献抄読						竹内研	
⑧スポーツ界に見る自然科学的身体分析の実証						竹内研	
⑨人間関係,社会現象に関わる自然科学的身体分析						竹内研	
⑩アンチテーゼとしての身体論に関する文献抄読						竹内研	
⑪西欧社会における身体論の生起に関する考察						竹内研	
⑫社会に関わる身体論の実証						竹内研	
⑬これまでの身体分析を止揚する運動科学による身体の把握						竹内研	
⑭身体の運動科学的に捉えた動きの実証						竹内研	
⑮最終レポート						竹内研	
教科書							
教・書籍名1	究極の身体			教・出版社名1	講談社		
教・著者名1	高岡英夫			教・ISBN1			
教・書籍名2				教・出版社名2			
教・著者名2				教・ISBN2			
参考書							

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ：修士論文の執筆・推敲 到達目標：修士論文を完成させる。</p> <p>それぞれのテーマについて研究を深め、修士論文を完成させることをめざして、指導教授を中心にして、社会学研究演習1から4に至るステップが設定されている。第2年次においては、内外の関連文献を読み進め、文献資料・統計資料を可能な限り収集・分析して、研究課題の焦点を絞っていく。必要に応じて、事例調査やフィールドワークなどを試みる。専門分野における資料の探し方、文献・資料の読み方、社会調査の企画とデザイン、研究目的に合わせたデータ解析の方法などについて、具体的に指導をうける。研究課題が絞られていく過程において、場合によっては、研究方向をやや転換させる必要が生まれるかもしれない。専門分野の学会や研究会にも積極的に参加して、外部との研究交流をはかることにも引き続いて努力する。研究の成果は、年度内に作業論文としてまとめ、1月下旬に予定されている大学院社会学研究科発表会において報告し、コメントを得て論文の確定版を確定させる。</p>						
授業概要	研究文献の精読、批判的読解の演習を中心とする。 この演習の受講生は専修免許を取得することが可能である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業参加での積極性(20%)、中間レポート（40%）、最終試験（レポートとプレゼンテーション 40%）によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	社会学研究演習1から4は必修である。事前の予習をふまえて授業に参加し、事後は必ず復習し理解を徹底させること。						
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業で予習(30時間)と復習(30時間)をするための課題を指示する。						
オフィスアワー	12:45-13:30 Tuesdays (classroom)						
授業計画						担当者	
1. 授業の概要説明・研究倫理教育						Merviö	
2. 学術論文の検索						Merviö	
3. 学術論文の収集						Merviö	
4. 学術論文の読解						Merviö	
5. 学術論文の解釈						Merviö	
6. 学術論文についての論考						Merviö	
7. 中間まとめ（中間レポート）						Merviö	
8. 学術論文のレビュー執筆に向けて						Merviö	
9. 学術論文のレビューの目的						Merviö	
10. 学術論文の批判的読解						Merviö	
11. 学術論文の筆者の視点を理解する						Merviö	
12. 学術論文のレビューの意義						Merviö	
13. 学術論文のレビューの役割						Merviö	
14. 学術論文の論文執筆での活用						Merviö	
15. 全体総括						Merviö	
16. 最終試験						Merviö	
教科書							
教・書籍名1	How to Write a Master's Thesis				教・出版社名1	Sage Inc.	

教・著者名1	Bui, Yvonne E.	教・ISBN1	978-1452203515
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and Researchers	参・出版社名1	Createspace Independent Publishing Platform
参・著者名1	Hamid, Mohamed E.	参・ISBN1	978-1482675054
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	研究論文の完成と研究課題の総括（研究成果と課題）をテーマとする。研究方法のルールに従い、論文をまとめあげることを通して、研究のオリジナリティと実証的な成果を明示することを目標とする。学生は論文作成にあたり、各研究方法に基づく十分な検討を実施し、結論づけていく能力を向上させることができる。また、どのような研究も、探求においては困難さや課題点が伴うため、その研究の限界や、残された課題点についても議論を重ね、今後の研究活動の見通しを立てるまでを目標とする。						
授業概要	受講生の研究テーマに沿いながら、研究方法を検討し、その手法を学んでいく。また、研究テーマに即した領域の文献、先行研究の内容を理解しながら、着眼点を掘り下げ、議論していく。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	どのような研究でも、受講生の研究への主体性が要である。実際の研究活動へ臨む姿勢（調査手順の進め方）やテーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	研究は他の誰のためにするものでもない。自らが探求的に研究の進展を推し進め、積極的に各種文献や資料を読み込み、調べ、問い、聴き、考え、書く等の作業に絶え間ない努力をすること。						
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第3回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第8回	発表準備（教育に関する資料）					山口英峰	
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第12回	発表（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第13回	発表（教育に関する資料）					山口英峰	
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第15回	報告発表会事前準備					山口英峰	
第16回	報告発表会					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	講義時に指示する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学研究演習Ⅳ（大学院授業）			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2011～2016年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学修士2年／2017～2022年度 吉備国際大学 大学院 社会学研究科 社会学博士2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>本研究の演習は、「東アジアの中の日本」というテーマの中で、グローバルとリージョナル、そしてナショナルな視点に立った総合的な研究を行う。</p> <p>この演習の到達目標は、日本と東アジアの過去と現在、そして将来の姿を総合的に理解させるところにある。今後の日本は、グローバル化とリージョナル化の狭間で、どれだけの範囲で、どの程度までに東アジアにかかわってゆくのか。こうした問題意識下で、近年における日本と東アジアの関わりを様々な領域や分野からアプローチして行く。</p> <p>なお、院生の学位論文（「修士」）についても、きめ細かく指導しつつ、完成を目指すことになる。</p>						
授業概要	<p>指導教授および副指導教授の指導のもとに、学位論文（「修士」）の作成を進める上で必要な指導を行う。各自の研究領域を確実に選択し、論文テーマを設定する。それについての専門的な文献を読みこなせ、論文作成を始める。こうした一連の作業目標は、学位論文の完成にある。</p> <p>ちなみに、この演習を受講すれば、教員の専修免許（中学社会・高校公民・高校地理歴史）が取得可能になる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	口頭試験（60％）とレポート（40％）によって評価する。レポートは授業中にフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>(1) 各自のテーマに真面目に、丁寧に、しっかり取り込んでいくこと。</p> <p>(2) 演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。</p> <p>(3) 口頭試験を行うので、必ず受けることが必要である。</p>						
事前学習・事後学習とその時間	<p>(1) 参加型演習であるために、演習参加者は事前課題を調べる必要がある。</p> <p>(2) 予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを提出しなければならない。</p>						
オフィスアワー	水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画					担当者		
1.オリエンテーション（研究倫理教育）					1.李 分一		
2.グローバル化と東アジア					2.李 分一		
3.グローバル化の理想と現実					3.李 分一		
4.東アジア地域論					4.李 分一		
5.東アジアと日本					5.李 分一		
6.東アジアの共生論					6.李 分一		
7.東アジアの投資と貿易					7.李 分一		
8.東アジアの歴史的対話					8.李 分一		
9.グローバリゼーションと中国外交					9.李 分一		
10.グローバリゼーションと日本外交					10.李 分一		
11.グローバリゼーションと韓国外交					11.李 分一		
12.グローバリゼーションとASEAN					12.李 分一		
13.日中関係論					13.李 分一		
14.日韓関係論					14.李 分一		
15.中韓関係論					15.李 分一		
16.定期試験					16.李 分一		
教科書							

教・書籍名1	1週間前に文献および資料は示す。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	